

野津原方言集

続

10



表紙画……………松本智裕  
題字……………姫野順子  
見出カット……………中部小学校カット集団

★ ご協力いただいた皆様 ★

岡本政雄《野津原》。三浦一郎《別府》。三浦敏男《野津原》。  
寺司勝次郎《大分》。豊東サツキ《木の上》。  
小野正己《野津原》。後藤ヨカ《野津原》。

★ 使わせていただいた資料 ★

野津原町政施行45周年誌。野津原公民館まなびー。風土物語。  
野津原文化財調査こぼればなし。野津原歴史記録会資料。  
野津原読み聞かせ資料。肥後街道五助物語資料。月のうた資料。

★ 調査…甲斐英行、小野寿祐、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。  
監修…小野寿祐、赤星ヨシミ。 カット…那須政子。  
印刷製本…小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ。構成…佐藤源治。

平成20年10月吉日

野津原方言調査会 大分市野津原竹矢

☎ 097-588-0572

事務局 野津原本町

588-0092



はじめに

平成4年の夏に取り組みをはじめた『野津原方言調査会』  
紆余曲折の15年が 皆様がたの限り無いご支援 ご協力によ  
りまして 『続編№10号…通算20冊』の 発行にこぎつけ  
ました。これは長い期間 ご愛読くださる多くの皆様の 情愛  
と『方言文化』に対する 優しい思いの賜物です。

先人が生活用語として 大切に使い受け継いだ言葉 それは  
心の代弁であり気持ちの表現 悲喜こもごもの生活の中から  
にじみ出た生活の 叙情詩でもあるのでしょうか。失われそうに  
なりつつある 今記録に留めて再度出番の際 躊躇せずとも使  
う準備の 又方言の歴史を学ぶ人たちの 何か参考にお役にた  
てばと 毎回手づくりの お粗末な冊子 限定100冊を拵え  
てまいりました。

五助さんが飄々として語る《クワフル》、故郷の生活の唄、  
歴史を浮き彫りする民話、伝承。子供の世界、女性の底力、心  
から泣いたり笑ったりする 街道ものがたり、玉手箱、ちょつ  
と一服、怪しげな話に憶測が走る瞬間、人間の古きよき時代が  
走馬灯のように 甦る生きている証。織りなす方言集に地区外  
県外からも ご支援していただき 感涙しています。

これからも続く限り 毎年発行を目標に素人集団が 取り組  
みますので 今後共に可愛がって ご愛読の程をお願い申しあ  
げます。誠にありがとうございました。

皆様がたの健やかな日々を ご祈念申しあげて お礼と発行  
のご挨拶といたします。健康管理に心くばりの上 ご自愛の程  
お祈りしています。

平成20年10月吉日

野津原方言調査会

もくじ

|                 |     |                 |       |
|-----------------|-----|-----------------|-------|
| 見だし……………        | 1   | いっぺん使わせち…………    | 5 2   |
| はじめに……………       | 2   | 五助ん米ん粉ダンゴ…………   | 5 3   |
| もくじ……………        | 3   | 里の玉手箱……………      | 5 6   |
| 野津原民話、伝承……………   | 5   | 一万田義興……………      | 5 7   |
| 柿野、駒かけ……………     | 6   | 佐藤利明……………       | 5 8   |
| 伊塚、矢貫、法泉寺……………  | 8   | 波多野乾一……………      | 5 9   |
| 福宗、野野台……………     | 1 0 | 佐藤義詮……………       | 6 0   |
| 貸した人の心意気……………   | 1 2 | 工藤三助……………       | 6 1   |
| 泥つけんかえ……………     | 1 4 | ふるさとの味……………     | 6 3   |
| 女性の底力……………      | 1 6 | 愛情かけた吸い物……………   | 6 4 … |
| 家族ぐるみ民生支援……………  | 1 7 | キューリン酢のもん……………  | 6 6   |
| 若い心にゃ変わりなし…………… | 1 9 | 粉練り粉あえ……………     | 6 8   |
| 健康づくり家庭から……………  | 2 2 | ダゴ餅……………        | 7 0   |
| 仏の絆しあわせ人生……………  | 2 4 | ツキアゲ……………       | 7 2   |
| 繊細な心は美しい花を…………… | 2 5 | ふるさとの史跡……………    | 7 4   |
| ちよつといっぶく……………   | 2 7 | イヌフグリの花……………    | 7 5   |
| 方言かるた……………      | 2 8 | 薪もん取り……………      | 8 1   |
| 方言の面白さ……………     | 3 0 | 鈴ヶ滝……………        | 8 2   |
| メンドシイ……………      | 3 1 | 方言単語ひろがり……………   | 8 5   |
| お父さんはお人好し……………  | 3 2 | 調査員のこぼればなし…………… | 9 3   |
| 桑原くわばら……………     | 3 3 |                 |       |
| 方言子供ん世界……………    | 3 4 | 伝言板……………        | 9 9   |
| 優しい心行き来する……………  | 3 5 |                 |       |
| 子供とお祭り……………     | 3 7 |                 |       |
| 雪の日のだいこん洗い…………… | 3 9 |                 |       |
| 水車小屋んクモンエバ…………… | 4 2 |                 |       |
| 五助街道物語……………     | 4 5 |                 |       |
| 白い手ざわり……………     | 4 6 |                 |       |
| そりゃまゝそうじゃ……………  | 4 8 |                 |       |
| 変な憶測……………       | 5 0 |                 |       |





## 方言は心を結び 絆となる生活用語

野津原での古い生活用語でもあった 方言を調べて記録に残したいと 同志が余暇に集める事が 後々故郷の役に立てばと呼びかけた。『よだきいなゑ』『しよわねえな』 そんな言葉が出たものの いざ取り組んでみると 単語2500語の予定が 思わぬ皆様の支援協力で 『単語集』発行になりました。

多くの思いで話 こんな伝承 珍しい方言。故郷で先人が使った以外にも 江戸期間に参勤交代などで 旅人の交流で 言葉文化は入って来て 故郷に定着して結ばれ 野津原の方言にも仲間入りする そんな方言もあります。野津原だけではない方言も入っていますが 絆の方言でしょう。

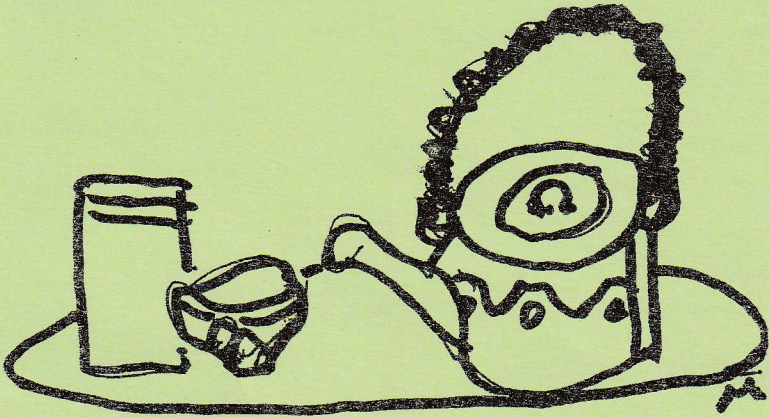
取り組んで16年あまり 『よだきいなゑ』の言葉は返上して影の 支援協力を頂いた故郷方言 約17000語が入りました。記録がなくてもかつては使った 生活用語の故郷文化は記録に残す事でこれから この種の研究調査される 皆様の何かお役にたてば この上ない幸せと思っています。

調査会員は家庭の仕事の余暇を利用して 取り組んでいます。それに全て手造の調査、編集、監修、プリンター、カット、印刷、製本、仕上げまで 心を込めて会員が取り組みますので 毎回100冊が限定です。物好き集団ですが愛情を込めて通算20冊を 記録に残せて愛読くださる皆様に 感謝申し上げます。そんな皆様かたがたの 励ましで継続出来たのです。

表紙画、題字も毎回ご協力いただいて 素人集団の冊子に輝く光を注いで下さいました。改めまして厚くお礼申し上げます。これからも続く限り 生活用語であった故郷文化を 掘起こして記録に残したいと 意欲わかせていますが……ご支援よろしくお願い申します。

編集子

# 民話 俚諺





野津原には6000年も昔から 人の住んだ記録があるので 語り継がれた民話や 伝承も多く残っていて それを先人が手本に生活の知恵として 使い分け営みの中で 生かしたことが広まって さらに伝承や 民話を創りだして 生活の中に 溶けこんだ風習となり 生活用語であった 方言にも広まって来たのだろう。

方言は人の心の温かさが入って 語り継がれている内に 幾つも枝別れしながら 地域によっては独特な方言にも 育っている。それだけ生活用語として 大切にされ使われながら 親から子そして孫に伝わる間に 又幅を膨らませ 美しさ 飾りもつけられて 変わり続けながら 方言は永久に消えることは ないのかも知れない

民話には必ずと言っていいように 人と動物が出るが人間も その動物の一つでもある。それがお互いに助け合う 支え合うのも自然の摂理なのか宿命なのか ともあれ人を 中心に 世の中 生かされているのも 勝手な決め方かも知れない。共存する時温かく優しい方言は それを他の動物は許してくれてる からかも知れない宇宙の 夢とロマンもあるのだろう。



## 故郷の伝承、民話

熊本県道が明治に出来た。はじめは辻原を登っち行く予定じゃたぬ 地元ん頭んいいしが『そげな往還が出来りゃ 泥棒なんか来るきオオゴチなる』ち 反対したごたる。それじ道がそりゃ一坂道になっちしもうた。雨が降りゃ土も洗い流すわ馬車が下る時にゃブレーキも かけにゃそれこそアブネエ。

時時滑り過ぐるもんじゃき ブレーキも効かんじ仕方ねー脇ん石垣いブツケチ止めた。こん石垣う『コマカケ』ち言い角石うサンワじ固めた いわゆる防護柵ん事じゃつた。馬もタマガッチ暴るる事もあった。バレちシモウチ死んだ事もありすぐ下ん曲がり角に 『馬頭観音堂』を祀り それからも事故も少のうなった。

『コマカケ』にも馬が慣れち 危ねえち思うた馬はすっと側へ寄っち左向いたき馬車も 馬もたいした事もねーじすんだもんじゃ。馬車んクズレタ時も馬車かじ屋もあっち なんさまイノチキ道具じゃもんじゃき すぐゆうしちくれよった。夜中え来るしもあったが 『いいで』気軽う修理しちくれた。

お互いがイノチキスル 支え会う助け会う事じ世の中 貧乏しちよつてん 凌げるんも心が通い合いよったけんじゃろう。観音堂じゃ盆の17日にゃ 供養踊りもあっち受け元は 供え物を馬車引きんしは 小麦粉やらきな粉なんか持ち寄って 心ん供養をしたもんじゃき 名所にもなっちよつた。

坂んすぐ下にゃ曲がりには淵もあったが 馬車共落てた馬はよくよくん因縁。でん供養しちもらう事じチッタ 浮かばれもしたことじゃろう。進駐軍が来るち飛行機んエンジンぬ 沈めたんなずっとあと敗戦後じゃつたが もう歴史になった。



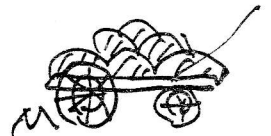
柿の坂の『コマカケ』『観音堂』にゃ こげな歴史があるがそれも時代ん流れに おし流されち道もマルッキリ変わり面影も 知る人もノウナッチシモッタ。阿蘇かるタクシーが別府に客を乗せ ここん坂を走っちオレチ来た。カーブは上手に曲がったけど その後ホットしたんか眠気か 瞬間に右下ん畑に転落しちしもった。

美人が乗っちょつた脇にゃ裕福な男性がいたのか とにかく地理不案内んタクシーん運転手 反転した車から這い出ると 外は真の闇じゃもんじゃき 咄嗟にポケットからライターを取り出すと点けた。不運はいつ発生するか宿命 そんな火がこぼれたガソリンに引火。

あっと思う間に燃え上がって 駆けつけた近所の人たちや消防車が 辛うじてお客の婦人を引きずりだした。和服のゆう似合う芸者か商売女性か 煤だらけになり病院に運ばれ緊急手当の時に口走る 『顔は大丈夫ゃろうか』 肥後弁じゃき違うかん知れんが。

火傷もひじいごたるが 腹には上等ん帯う絞めちよつたき予想よりゃ 大事にならんじすんだごたった。命拾いしたんも『観音様のおかげ』ち 暫くした頃に尋ねち来たが 人の感謝する気持ちは 絶対に忘れない事ん大事さも 垣間見るとごたる事故じゃつた。

道路も改良され新しい道は 過去の物語など消えたように車は 今日も走っちょるが柿野坂は 消えないままじ上り坂を 学生が通い自転車も下る。馬車え……そげなもんなもう見ろうたてんネーデ。観音堂はわずかに山の持ち主が 周りの草きりを時折しちよるが 喉元過ぎた頃が本当はオジイチ思うがなえ。



『伊塚、矢貫、法泉寺』

一の瀬渡しを越えち登り坂 石だたみされちよる道が くね  
っち伊塚に上がると 東べらにゃ野津原ん里。赤坂川が『七瀬  
川』になったんな 行列が七つん瀬を渡っち行くき つけられ  
たんと。水ん多い時にゃマクリアゲチ 渡るぬ徒渡りち言う。  
そりゃ一下級武士ん呼称じ 今でん東京《当時ん江戸》ん 御  
徒町た一そんな名前かる残った。

え一と登りち一た峠にそよ風が 汗うけ一た肌をすり抜くる  
き なんとん言えんコンコロイイ気持ち。一段高え所り『夜泣  
き地藏さん』が 祀られちよる。夜泣きん子供ん時い ここに  
連れち参っち側ん 松葉ん枯れ枝うフスボラカスと そんな煙り  
い夜泣きん悪餓鬼が 逃げ出すち言う。

泣く子に悩む親が一心に願う そんな気持ちい仏様もきっと  
思いを叶えちくれたんじゃろう。お礼に参ったしが着せたんか  
『赤えヨダレカケ』 上品に着せられち嬉しそう。人間と神仏  
とん関わりは いつん世にも支え合うことじ 幸せにもなるる  
んじゃろう。そき一人間のよさもあるごたる。

肥後にくだる下り坂にも石だたみ そしち大きな石橋がある  
。参勤交代になっちかる かけられた一枚石ん橋あ いつ誰が  
かけたんか謎じゃけんど ひょいとすりゃ人に言われんしが  
苦勞しち架けたんかん知れん。こんくれ一ん大けな石橋なんか  
そりゃ チョットヤソットじゃねえけんど。

この辺いったいを矢貫ち言う。かさかる矢をツガエチ弓う  
射たらこき一矢がささった。それじ付けたとか。もちっと先に  
ゃ下羽ち言う所もある 下羽が落てたんか。どっちしてんロマ  
ン仄かに 言い伝えたしも面白いが 偉えとん思う。こげなし  
が多いこん地区が『竹の内』 弓づくりにないる竹がつく。



まちっと先に行くと 長竹ち言う地区もあるあたりゃ 竹が多いしイノチキと 何か因縁もあったんか。まんなけーあった法泉寺にゃ 修行場ん滝もあっち 落つる滝ん水がフント鈴う鳴らすごたる そげな音に聞こえたもんじゃき 『鈴ヶ滝』ち付けられた。

〃 神楽ばやしに 更け行く夜は

濡れて 見たいよ 鈴ヶ滝

ハ 七瀬の せせらぎ モミジが チラホラ

ほい ほい ほい 〃

昔ん諏訪村じやったここん村長さん 野津原村と合併するこちなった。『よしオレドウン力量見せにゃ』ち 境に素晴らしい 切り石ん橋う架けた。当時ん予算じ約2万円じゃつたち。

戦後まじここん区じゃ 区費ん割り当てう財産に 見合った上じ決めたち言うのん いかにも上に立つしん信頼、思いやりがあったかるか。

参勤交代道お矢の原かる 石原道う曲がりながら 宮脇に出ち大野かるん道と合流 下羽に入り矢貫かる 伊塚に登り峠じ一服したあと 野津原にくだった。法泉寺橋が出来たんな 明治になっちかるんこと。野津原ん中断の平野は ここかる福宗やら太田に広がっち行く。

右に入っちいくと福宗に入るが 盆の21日にゃ『弘法回し行事』が 受け継がれちよる。そん昔水に恵まれんじゃつたき願をかけた。高坊が言うには『弘法まつり』をして 供養すれば水に恵まれ 美味しい米が出来ると言う。時の長が素直にそりゅう守り 今も水が回り美味しい米が実りで一た。

それかるは毎年盆に『弘法回し』に 若いたちが気持ちを集め 供養踊りにみんなが心和ませちよつた。あるシケンひじ

い年じゃった。『なんさまヒジイシケジ』 とてんアブネーカシレンち 役員が『弘法回し』う中止するこち一なった。ところがそれかるは ゆう風が雨があっち それまじゆう出来ちよつた稲が スツクリいなっちしもうた。病気もはいたりんサンザンナメ よりおうち相談したら やっぱ『弘法回し』うせんじゃった それがどうぜん答えに出た。

スグサマ皆んなじ弘法様に お詫びん祭りうしち詫びたら 半分以上が元に戻ったち言う。『ありがてえ年の夜が越せる』石灯笼に明かりをいれ 感謝ん気持ちゅ表した。のちになっちそん石灯笼にゃ 秋になると灯が入る。9月1日かるん『賀来ん市』かるじ 人によっちゃ善神の様にあげたとん言う。けんど優しい気持ちゅ神様でん 仏様でん真心ゅ通じるもん。

『弘法回し』たゅ弘法大師を 御輿に乗せち区内を回り 区内の無病息災安全を念ずるもん。全国的にも珍しい行事でんあり 大師のご加護が約束さるるんかん知れん。人が頼る神仏にゃそん誠意がありゃ それなりんご褒美もあるんじやろう。が受くるだけん欲望じゃこりゃどうか。

東に高い山があるが ここが野野台じ『のろし台』んある所。岩下かる登る道にゃ石だたみが残る。久住かる野津原に行列が出ると のろしがあがっち知らするが それた一別に早馬ん連絡も入る。宮脇ん詰め所に知らせた後 こん坂を早馬が駆けのぼっち知らする。

こいさ野津原に止まるこち一なる、そん知らせがここかるあると こんだ鶴崎んしが『明日は鶴崎い入るど』ちなる。野津原かるは本式ん行列 共揃いになるき皆んなにフルル。さあいよいよ野津原ん陣屋は大忙しい。一番早う来た組ゅわり楽な仕事ん 受け持ちになるちゅうわけ。

行列仕立てにゃ決められた人数 持ち物があっちそりゃもう  
大事じゃつたごたる。早うつうじ来た組も比較的に 楽じ鶴崎  
まじ行くこち一なるき 競争じゃつたごたる。

競争ち言や明治になっち 野津原かる温見まじ走りよった  
『郵便』もあつた。そんな頃も野津原もわりかし 早う郵便局が  
出来ち…何でん大分県内じ30番目じゃつた。ジャモンジ大分  
⇒野津原⇒温見を走るんが アタリマエじゃつた。体格んいい  
屈強ん男が 走っち温見まじ行くなも 若い娘たちにゃ憧れで  
んあつた。

県道が出来ち道もゆうなつたけど 時にゃイノシシやら狸  
やらと 出会うちタマガツタリ ドッチモじゃろうなも。が後  
にゃ顔馴染みになっち 『まあ話さん』 そげんこた一言うめ  
えけど とにかく寂しい場所も多かつたごたる。それでんケ  
ックシャ貰いよつたき まあ花形じゃつたじゃろう。

一の瀬渡しん五助さんどまも 馬も引いててん商売じゃき  
まあ走るこた一ねえけど 帰りにゃダツタ時どま馬に乗り  
ウツラウツラしよると いつんなかめ一か寄りつけん家ん前い  
止まच्चよる。動かんち思いよつたら 馬はそげんこた一お構  
いなしじ 立ち止まच्च道草う食いよる。

『まあふんと』ち 思うたけど 考えちみりゃ一人間なち  
っと 贅沢かん知れんち思うた。『こいさどまちっとハミュウ  
ハリコムカ』 聞こえたんか解らんけど 馬は頭もいいきな  
も 人間の考えちよるこた一ゆう解るごたる。『ほんないヌル  
カノー』

“ 秋葉越えれば 火伏せん森に

フロ一煮えたか 諏訪の灯じゃ

ハ 七瀬のせせらば 子鮎がスイスイ

ほい ほい ほい



## 『貸した人人心意気』

田舎ん清貧農家が苦しさんあまり 2円の借金ぬ申しくうだ年ん暮れ そんしゃ家屋敷う書き入るるごつ 言われ証文ぬ書いち年ん背は越したもんの そん頃としちやぁ大金じゃった。一年中んイノチキうすりゃ とてん利子う払うだけじ精一杯じゃった。利子だけじち 納めち何年も過げた。

そりゃもうヒジイノナンノ 顔見らるるんがナサケネエ。ソレデン利子だきゃキチント 年ん暮れにゃ納め お礼を言うち貧乏ん辛さを家族みんなが 味合うたけんど心じゃ貧乏にゃ なりさがらんじゃった。どうにんならん年が今年も次ん年も続いた。

そしち戦争に負けち世の中が いっぺんに変わっちしもうた。あん2円の借金などげーなったんじゃろうか。じゃけんど書き入れた証文な貰わんと。相談したあげきそん事う話すこちーなっち そん頃ん相場と同じぐれーん 準備ゅすると尋ねた。

証文ぬ返して貰いたいんじ どんくれーお返しすりゃよからうか……恐る恐る尋ねた。あれな『貸したな2円じゃき利子はきちんと貰いよったき 2円だけじいいで』『……』『心配せんでんいいわな あんたどうはそりゃ 辛かったじやろう。ゆう我慢しちヤケニモナランジ 頑張ったなぁ』そん言葉にゃ何も言えんじ 感極まっちしもうた。

『あんなぁテーゲンシガほげほっば 言いよったんで それでんアンタドウ親子は グジットン言わんじいつも 礼は尽くしち利子は持ち来た。それだけでん大したもんじゃねえな』『そげんことじいいんじゃろうか』『いいぐらいか』

うれし涙がこぼれ落つるごたる瞬間。『そうじゃ証文ぬ先返しち こりゃあな あんたどうが払いこんだ利子じゃが いい時が来るまじ預かったもんと同じじゃき 返すで』『え そりゃ又どけなりくつじゃろうか』『あんなあ はじめかる利子なんか貰おうた思わんき 熱心に持ち来た分なちゃん と 貯めちよいたんで』

今更んごつそん優しい心くぼりに 涙がこぼれちしもうた。『あれかる10年早えもんじ ほらこんくれー』 小銭ん音が長え年月ん悲しい音うたてちよる。『あずかったな返さんと利子う取らるるき』 思わずふきで一ちみんな笑ろうた声が 家じゅうに響きわたった。

『2円だきゃチャントモラワント わしが損するきな』  
お頂戴した手のなんと荒れち 『まあこげ一手が荒れち』  
『稼ぐに追いつく貧乏なしじゃろう たまたまあんたどうは運が悪かっただけじゃこと じゃけんどハリクウジ頑張ったき そり一戦争も負けちケックシャよかったじゃねえ』

目頭が熱うなっちキラリ光るもんも見えた。今までのチット違う世の中になるんじゃろうが。それでん2円しか受け取らん そん心意気に嬉しさと 優しい心くぼりが 人間の心に何もんにもねえごたる 宝物ぬくれたような日じゃった。『これからはもう借る事もねえじゃろうが あんたどうごと 几帳面なしにゃ ふんとまっと貸してんいいなあ』

感激に人情けが身に染みたごたる こんしにゃ これかるも 自分出来るこた一しちあげにゃ 罰があたるじゃろう。今もこん家は立派な人たちち 言わるるのん心が豊かな人間性を 備えちよるからじゃろう。そりゃあ一朝一夕にゃでけん事じゃが。★2円たあ現在価値じ50万円ぐれーかな。

## 『泥つけん頃』

水ん少ねえ所が一番ドベになる毎年ん田植え それが矢の原に来る頃お7月に 入ることが多いのん仕方ねえ。半夏至水ん手助けじえーと今年ん 田植えも終わったシドモガ 田の泥がち一た苗っ持つち 諏訪ん役場えやっち来た。『田植え済んだで』 そん喜びゅう満面に浮かべたひげ面。

言いよせん誰れでん構わん 泥っつけはじむるもんじゃき相手もタマッタモンジャネエ。がそりゃそれなりに 百姓んこつ思ゃ苦労したアゲクン 田植えがすんじニガオレタ気持ち。痛えはずゆう解るき 役場んしも泥がツクケンド それも我慢する気持ちも 皆んなと喜ぶ現れでんあろう。

逃げ回っちワザト困る顔っしちみする これもお芝居じゃろうが メートシンコチなりゃもう 役者も名演技になる。そんチョイト賑やけ一時間があつと マルキリ煙りがフスポックゴタル 時のめーに消えち行く。『ふんと』言葉にや 愚痴も言いて一ぬこらえち 『えーと済んだど 明日かる田植えよこいじゃの』

小作地に植えた百姓たちが 地主ん所い『今年も田植えが済んだき』 報告に行くど地主も嬉しそう。『早かったなお苦を見たじゃろうな まお泥落としにしちおくれ』 決まっち祝儀ん酒たるがシコウシチャル。『オオキニ』 もう顔が笑顔になっち 暑くなつた夏ん陽も苦にならん。

『サナボリしち湯の平え入湯に行くか』 泥んち一た田植え着物んぬ 洗っち干すのんダリが出るのんイチドキ。シャガ心お何かニガオレタ 落てち一た気持ちいなちしまう。根づけ半作ち言うごつ 今年も稲が半分出来たようなもん。

井路ん流末にあった地区じゃ め一年こげな行事がすんじ  
『田植えよこいになる』 素朴ん風習がつい戦後まじ 続い  
ちよつた。泥うつけらるるしも 苦勞した百姓しと苦勞を  
分かちおうた和やかな 夏ん風物詩でんあつた。村長さんも  
心得たもんじ 汚れてんいい着物う着ちよつたち言う。

方言説明 ドベ…終わりしまい、最後。半夏至水…7月  
んはじめに降る大雨。シドモガ…その人たちが。  
タマツタモンジャネエ…我慢ができないようで。アゲク  
ン…その上。ニガオレタ…やっと落ち着いた。ツクケンド…  
ついて汚れるが。ワザト…仕方ないありさま。メートシンコ  
チ…毎年の事で。マルキリ…全く。フスポッタゴタル…煙り  
にいぶされて。

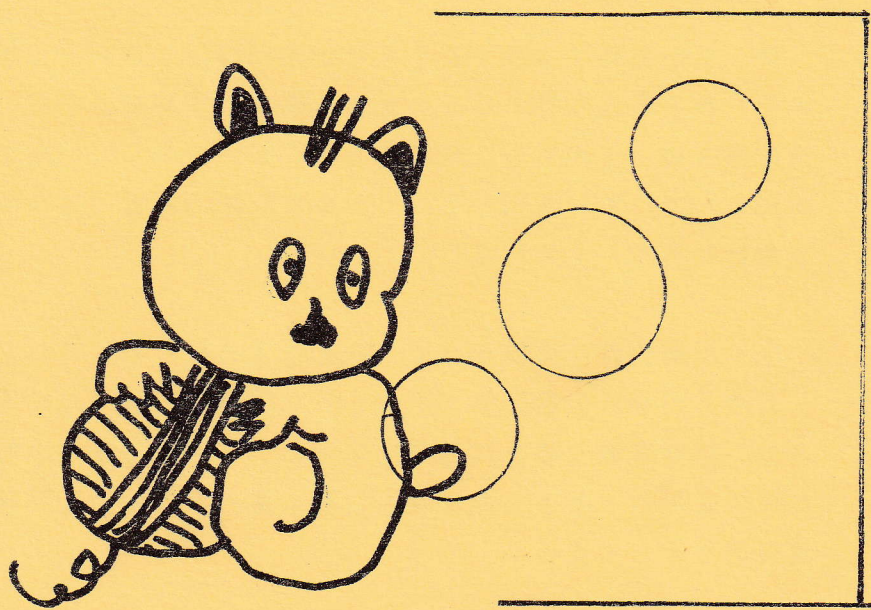
チョイト…ほんの少し。タウエヨコイ…田植えの済んだ公認  
のお休み。ドロオトシ…田植えの慰勞に入湯。シコーシショ  
ル…準備してくれる。オオキニ…ありがとう。サナポリ…苗  
を供えて田植えの済んだ感謝の行事。ジャガ…ですが。

田植えが無事いすみゃあたー 水ちゅうなわりと チット  
ウデン延ぶもんでんある。井路カサンシャ余る水は 流すも  
んじゃき下ん方は イイアンベニ水が入っち来る。時のめ  
に根づいた稲が『水ひもじい』もんじゃき 根をしゃんと張  
っち養分ぬ吸うき 太りが早え。

諏訪ん田植えがおおかた終わると すぐ盆になるもんじゃ  
き トイモン草取りと 一番草取りが続いち 馬屋ん肥出し  
やら仕事たぁキリがねえ。けんど暑さが続くと稲はどんどん  
育っち 泥付けされた頃ん事たぁ もう忘れちしまう。夏ん  
思いでになつたあん 『泥つけ行事』が懐かしい。



# 女性の底力





農村の女性は逞しく 生命力が強いのも生まれついた 精神力を宿しているからだろう。いやそのようにしないと 生きて行けない宿命があるのかも。母性本能がそのような試練に 打ち勝つ原動力になるのか 生命を受け継ぐ与えられた 命運を確実に守っての事なのか。

食一つにも日本民族本来の 菜食をいかした知力、能力、実践力を持ち合わせ 巧みに生かすだけの素質が 充満しているからなのか。生かす便法、使い分ける能力、味を創り出す、繊細な英知は 生活面では控えめであっても 生きる民族の鍵を担っているのもあろう。

優しさが笑顔に表れ 心くばりが常に周囲に広がり 相手の心を汲み取る先見の術は まさに家族の守護神として 家内を護る技の伝統性も 包容力も備えているから いかにか心が和やかでいて 急転にも即応出来る判断力にも 長けている魔神的存在かも知れない。

吹く涼風に洗い髪靡かせて 水回りする畦くろに いじらしく咲く山ゆりの枝一輪。そつと寄り添い囁くような仕種はあの 強靱な働く姿とは連想出来ない 仄かな豊かさが醸しだされる 初々しさも忍ばれる。裾をまくった白い足が露に濡れて キラリ光った。



## 家族ぐるみの民生活動

『折角声をかけちくれたんじゃき お引受けしたら 皆んなも加勢するわな』 家族おもいんこん家じゃ そげなこち一なっち『出来る世話しちよけ いつ世話になるか解らんき』 常にゃ口うサイダサン親父まじが 賛成しちバアサンに勧めた。民生委員ち々なかなか誰でんちや 言われん行職でんあるき。

時にゃ孫う背中えおんぶしち ちっと遠いところにゃタクシ一ん世話にもなる。登り坂がひじい地区じゃき そり一好きなもんの一つも持ちちいきて一。ねんじゅ行くんでんね一 待つちよるしん喜ぶ姿う見りゃもう 自分がん幸せに置き変えち 自然そげん気にさせらるる。

中にゃ時たま顔見せち『どげ一な』じ 返事も顔色もよかりゃ引き上ぐる。会議だけにゃ来るがヤラト世話せんじ いつまでん交替せんじ何か貰うまじゃ止めんとか。受くるしゃ『あんしゃ悪いき他んしにちやこれも言えん』 もんじゃき差別もあるじゃろうし 不公平な哀れさも浮き彫りさるる。

『今日は握りごはん持ちちきたき 皆んなじ食びゅうえ』 近所におる人たちにも声をかけち サカシイシャ集まっち 何のうでんみんなじ食ぶる そん心くばりゃもう嬉しいぬう 通り越しち涙がこぼるるごたるち言う。『すまんえ』『あげんことんじょう うっと一は出来るきするだけんこと』

笑顔と笑い声が聞こゆる集落ん一角 受ける人たちも明りい気持ちになっち 『こいさゆう寝れそうじゃ』『ふんとなえ あしたん朝起こしてな』 そり一みんなが又どっと笑うた。窓ん外にゃもう春ん花が咲いち 寒かった今年もそこまじ春が来たごたる。

団地に巡回する日なんかは 近所んさかしいしが一緒に集まっち 昼ごはんの弁当を頼む。日ごろゃ一人ん昼でんこげえ集まっち 食べるんな美味しいごたる。食べながら情報を聞いたり困った事 同じ思いん悩みは皆んなじ 考えたりすりゃ知恵も浮かんじ 気がつかんじやつた事も解る。

若い頃ん話になるとチョコット もてた話、見合いに好かれたけんどこっちが嫌おたち 打ち明けはなしにみんなが爆笑もしたけんど それももう時効になっちよる。罪のねえ話しゃいいけんど 人事になるとやっぱ口をはさんで それはもう言うまいえ。

博学じゃきあれこれ相談もあり 地域の面倒見もいから 重宝がられる。民生委員ちゃ大変な仕事でんあるが 信頼の出来る人じゃかるこす 声もかかり委任もされる。家庭も心を寄せて協力してこそ その人の人間性も評価さるるもん。名前だけとか名誉職だけでは 相手の窮状の世話をする卓越した 職責は全うできないだろう。

施設慰問や寝たきりなつた人は 足しげく訪問する事でどれだけ 癒され慰められることか。職務を越えた人間愛がそこには 美しく実るかも知れない。『元気なつたんで』電話の向こうの声に 涙が滲む嬉しさ 『よかつたな』後の言葉が出ない感激。世話をして初めて知る情感かも知れない。

交替してなかなか来てくれないと 愚痴の電話が入ると身につまされる。立ち入れない領域だけに 出来る範囲は声として伝え励ますことに。自分の幸せもそんな世話をさせてもらったご褒美かも知れないち ふとこぼした話を聞くとこちらまで嬉しくなつて『ご苦労さまでした』と 付け加えた。





## 『若い心にゃ変わりねえ』

昭和ん50年代〈1975〉頃に 石だたみん側え同じような境遇ん 若え嫁ご同志が時たま集まっち話すうち 折角寄るんなら持ち寄っち 『売るなぁどげー』ち そこはそこ知恵が出ち売るこちーなった。『若妻ん店』 なかなかいいんじゃねえ名前。畑んくろん野菜 牛ん草きりん時ん畦ん花 そげなんも 買うちくるるしがありゃ 嬉しい小遣い稼ぎにもなる。

みんな牛飼いやら山を利用した シイタケ作りなんかは米ん少ねえぬ ちゃんと補うちくるるき助かる。同じごたる境遇ん若い嫁ごにしちみりゃ 小遣い事もあるが働くついでん 収入が家庭も家族も潤うもんじゃき 年寄りしも影かる応援する。こんめー小屋じ交替じ物売りゅしながら 日ごろん苦勞悩みゅ打ち明けおうち 慰めん時間ぬせり出す生活上手になった。

無人じゃつたけど始めは 銭が入りよったに いつんなかめ一か銭と物とんサンニューが合わん。お互いを責める気まじいこちならんうち解決策としち 当番制度にしちおるもんじゃき自然とお客も出来た。腰かけち話すうち『こんだ里芋がほしいんじゃが』『山芋取っちょいちくれんな』 苦勞しよる若い嫁ごたちに 同情も心ん支援もありで一た。

店がありゃ品物も増やせる 乾物も保存食もおけるる。季節ん野菜は人気がゆうなった。時折集まっち打ち明けはなしに花が咲くと次ん知恵がまた浮かぶ。石だたみを見に来るしも珍しいみやげにち買うちくるるもんじゃき それが帰ったそん人たちん口かる広がる。

いつんなかめ一か『若妻ん店』が 運んじくれたお客さんによっち 思わん宣伝にもなっち 名前に魅かれちくるしもあっ

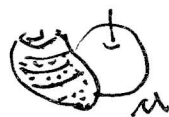
ち いつんなかめ一か固定客も。苦勞しちょきゃいい事もあるで…ちょこっと顔をで一た新聞社んしが そんな頑張りよるぬ載せちくれたら 街道筋じゃきちょこっと寄る 物見客まじが常連になっちいく。

百姓は生易しいもんじゃねえ が頑張る人間にゃオテナトサマハツイチョル。暇暇に作る野菜の中かる 店に出す家で食べる 近所んしに接待する。そんな手入れ方法がいつんなかめ一か 身につき手先に育つち行った。牛糞が肥しになりそれで野菜がでけ 店の品物んが家庭の経済に潤う。人間の感謝は回り回る輪廻でんある。

家族のみんなが協力しあう ほんのささやかな心くぼりでん 経済は伸ばせるもん。店が忙しゅなると年寄りが田畑ん忙しい時『わしどうが店番に行くで』『子守はするきハリコミヨ』。皆んなん情愛がありゃこす実りも多うなり牛も育ち苦勞が 苦にならんごつなつた。

若妻が中年妻になりよるが そんな子供がいい年頃になるが 『やっぱ若妻店』じいいんじゃねえ。ひばり会に変更したけど 馴染みん深い若妻ん文字にゃ 魅力もあっち抵抗もねえごつなつた。石だたみち言うと『若妻ん店』ん連想が 人ん気持ちゅここまじ支えた そげな仄かん夢が思いださるる。

顔ん皺がちっと気にならんは嘘 でんお客さんが来る店に 働く喜びは苦勞したご褒美かん知れん。ほんの少しん儲けで子が育ち家庭が潤う。かんしゃせにゃなえ ふんと年は取ったけど昔と ちっとん変わらん優しさが 若妻じ堪えてくるるき いいなえふんとオオキニだんだん。



## 『健康づくりは家庭の輪』

早朝の新聞配達にゃ楽しい時だけじゃねえ。寒い冬ん朝 暑い真夏ん期間 そりい雨ん日風ん日。犬がほえかかり食い下がる車に危ねえ時も そりゅうまゃゆう乗り越えち 親子が繋ぐのん家庭ん輪がグルグル 回るからこそん歴史でんある。子供ん頃い早起きと健康ん為い始めた そもそもん始まりじゃつた。

時にゃ親が見兼ねち『今朝は変わろうか』『いいで』 歯をくいしばちやり遂げた そん自負心な大事にしたもんじゃき そん癖が抜けきらんじ タマン休みん日でんキマッチ 目がさむるのん人間の体内時計が ご褒美にくれたんかん知れん。風邪うひいた鼻声ん日じゃつた。

『人並みヒイチシモッチ』 けんどすぐユウナルンモ 日ごろ鍛えた健康体がそうしちくるるんじゃろう。生まれた子供がそん母親ん 働く姿え好奇心ぬ湧かせよる。『いつかる配る』いじらしい そん気持ちに親は涙が滲む。小学校まじゃ無理じゃろう 待ち切れん気持ちに 親は戸惑い『子供に働かせち』 そげな影口も聞いた日。

でんそれぞれん家庭ん事情もある 健康づくりん基本もある。1年生になち夕刊ぬ近くを 足慣らしち思うたらなんと そん遅しさに驚くばかりん健脚。頼もしさに親も『やらせたい』意欲と 子育てん間違いじなかつた自信も 開花した時期に区域を広め 朝刊に移行した。ごく自然体ん社会教育でんある。

礼儀正しいと愛読者ん声 『有り難う』と返る言葉に 喜びを味わう少年の心には 労働の心構えも育って行く。子供が主体の時代から 高学年になると弟が妹が継承する。間を繋ぐ母親父親の 連携プレーは自然の中に 写し出さるる絵にもなちよる。



4時45分になるとカチャツ 門扉が開く音じ新聞受けにポトリ 今日も新聞が配達された。親の撒いた『新聞配達が健康づくり』ん 40年はずん親子じりレーした 歴史う刻む足音でんある。子供が社会人に 高学年になった今 母親の逞しさが優しさん 母性本能と交差させち 今日も確実に歴史う刻んじよる。

体操しちよると表通りを回っち 裏通りに来た頃ん時間が寸分変わらんのも 性格かも知れんが愛読者に 時間を知らせるサービス精神かも。キャツプライトで足もつう 郵便受きゅう確認しち配る 責任感と読む人たちに 心ん無言の『モーニング』……人の生き方はこんな人たちの 多い社会ほど心が豊かにもなる。

いつじゃつたかタマサカ 玄関じ受け取っち『毎朝大変じゃなゝ』『いえいえ健康の為に有難いんで』 素直に今ん自分たちん生活う 感謝しち喜ぶなんか そんな気持ち心がデジェジナ事ち思ったが真の健康たゝ 心が感謝ん明け暮れによっち 健康も約束さるるんじゃちも 思われち嬉しゅうなった。

祝日じゃつたか親に代わっち 高学年になった娘が配達しよる『あら 珍しいなゝご苦労さん お母さん孝行な』『孝行んまねごとで』 控えめんそんな言葉が 笑顔となんと愛くるしい。こん親にしちこん子がある じゃき家庭が健康じ回るんじゃろう。心ん底かる楽しいなゝ 豊かん情愛でんある。

巷にゃ今日もおどましい記事ん多い事。そげな社会ん片隅じ心ん明りい 豊かん人間のイトナミがある。それこす撒いた種が丈夫な花を 育ちんいい実を結んだき 『健康づくりゃ家庭かる』が ゆう似合う親子ん配達リレーが 継続されたんじゃろう。いつまでん配っちくる足音が 楽しみな故郷。



## 『仏の絆が生きがいにも』

ちょこっとしたことかる 四国遍路に巡拝するこち一なつた。けんど家ん事やら周りんことやらじ 気まぐれ巡拝ん仲間いりでんあつた。じゃけんど年う取っち 伴侶ものうなると仏とん絆も 考え方が変わるもん。いままじ巡拝した残りん『お参り』う どうしてんしとうじタマランジャツタ。

そげな時じゃつた ゆう参りよる話しゅう聞くソソシカル『誘い話し』 渡りん船、水があつた魚、んたとえち言うか二つ返事じお願いした。これが人生の巡り合わせでんある。今まじゃそげ一重きもおかん そんな巡拝がもう高貴にも思ゆるんな 年をとつたからかん知れん。

ほかんしたちにも話したら 『行きて一頼んで』ち賛成。いっぺんに4人がチーチ行くこち一なつた。いままでん何とん知れんごたる考えかる こんだぁしゃんとした考えに 心う引き締めち白装束。これが四国遍路かとん覚悟したとか。なりぁともかく気持ちち心が それこそ大事なことでんある。

ちつた窮屈なごたる集団遍路 じゃがそれじゃかるこそす巡拝ん意義もあるんじゃろう。ヘラヘラ笑いながらじゃねえ緊張 そして心が和む瞬間のお参り。仏との絆は人生の修行と 心ん研鑽が交差する場所でんある。お互いが支え合いながら 泊まりを重ね歩きながら 自分の過去を振り返ちちも見る 懺悔ん世界でんある。

途中じいただくお接待のお茶に 人間は一人じゃ生きちよられん弱さも 哀れさもかみ締むる。じゃき自分に出来るこつーする 気持ちに心になち帰る そき一遍路道ん成長もあるのじゃろう。笑顔になるる巡拝の片隅じ 幸せが交差し

ち遍路は鈴々鳴らし 般若心経を唱えち歩く時 そこにゃ無  
我ん胸中にもなるるち言う。

札所じ愛想ゆう手続きしちくるる 寺ん人たちに『お世話  
になります』『ご苦労さまです』 たったそん挨拶ん行き来  
が 無言に心々慰め癒しちくるるんは 四国じゃかるこすか  
ん知れん。普通ならべチャクチャ話に そんまま広がるんじ  
ゃろうが ここじゃ後の人んこつう思うと むだ口々ヘラズ  
口になっちしまう。でん笑顔あちゃんとある。

テキパキした朱印と寺名を記帳する 手裁きん中かる無言  
でん伝わる 人の優しい気持ちがどんくれ嬉しいか。しゃべ  
るだけがいいもんでんねえ……そげな勉強も受け取れち これ  
もお接待ん一つかん知れん。何十人を相手ん仕事 そん間  
をくぐり抜けた自分の 仏に近づく有難さ。健康なら何回も  
尋ねてえち意欲も湧いちくるのん 不思議でんある。

『あんたどう時間がありゃ お参りしちやどげーな』 そ  
っと話しかくる時 自分が体験した仏とん絆に 他人人たち  
もあやかる機会 そげな思いもこめて勤める時 自分も仏に  
なったごたる心境に させて頂く嬉しさが全身に漲る。それ  
も誘われた巡り合わせん人生とん思う。

団体じ早朝白装束ん集団が バスに乗りこむ時気持ちは  
あの大師の広めた仏の里。そしてそこにはお遍路を大事にす  
る 四国の人たちん優しゅうじ 暖かい受入れんおもてなし  
が 待ちよつちくるる。じゃき又お参りしとうなる 不思  
儀な思いに誘われちしまう。

たったいっぺんきりん人生じゃもん。それもいいんじゃね  
えち。『又お参りかえ』『そうであんたも行かん』。





## 『繊細な心が美しい花を』

針ん運びに真心がこもっち 仕上りのそん時ゃ別離ん辛さじ 想い惑わすち言う。こんめえ頃かる和裁う手がけた 女らしさが人形創作でん 生かされち脳裏に描く人間像にゃ 心がこもり情愛が滲み出る 別世界に拡がる。『こりゅう繕うちくれん』 頼むと快ゆう引き受くる そん眼差しにゃ安堵感も醸しでえちくるる。

体育でん社会活動でん取り組む執念 一途な心ん閃きにゃ物事に対する 着眼の素晴らしさもあるき 地区ん役職に推薦された。物怖じするごたる始めじゃつたが 執念なそりゃカバーしち 底力う見せち見事ん任務う全う。輝いたのん人となりがそげー させたんじゃろう。

言うは簡単でん実行ともなりゃ そりゃとてん大事でんあるき 人間の真価がそき一顧も覗かせもする。遙かにいい面め持つしがオulunモ事実。そき人間社会ん組合せん妙なる味。形こす違うてんヒョカット組み合う 異質でん生かした構成な 思わん宝物も獲得出来るごたる。

女性らしい真髓が滲み出る時 そん企画にゃ殺漢としちよる現世にゃ 一服の清涼財ん役割も果たしちくれた。斬新さも生み出し適材適所配置から 湧き出る繊細な新風は格別に光って故郷振興にも大けな波紋め広ぐる。本人の持って生まれた特異性がそうさせるのか。

小物に愛情込めち運ぶ針は女性の心う 素直に現すと話す横顔にゃ 素質があつた事もそれを生かす 真心ん氣質が生涯ん生き方にも きっとプラス思考となっち これからも強い味方じ生涯ん伴走者になるごたる。旧態依然とした世の中も

なかりゃ困る事もあるもんじゃき なんぼ洋服時代になつてん 和服んよさは日本人にゃ捨てられん。『方言でんそうでじゃき調べち記録に残しちよく』 『へえゆうハリコムナァ』 人それぞれん宿命があるんじやろう。いらんごたる方言でん いつんなかめ一か使いよる。

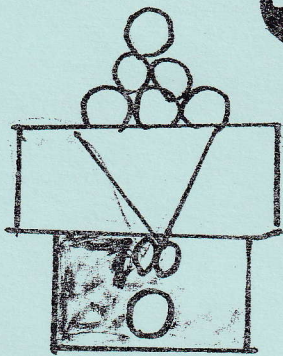
『どげーなヒドカッタナァ』 『インゲ皆んなが ゆうしちくれたき』 笑顔がこぼれため見ると 苦勞があつてん出番の幸せ人生も満喫したごたる。人間それぞれんよさがあり 社会に貢献出来るもんじゃが 自分じ気がつかん事やら 起用された巡り合わせでんある。

『支えちくれたかる』 そりゃ自分が人っ支えた証でんある。弱い人間の一人ん力は知れちよるが 人ん支えじ倍にん三倍にんもなる。生かされた人生こそ幸せそのもん。心を豊かにもっち人ん声がある時ァ 役立つ優しさこそ大事な 世渡りでんあるんじやねえ。

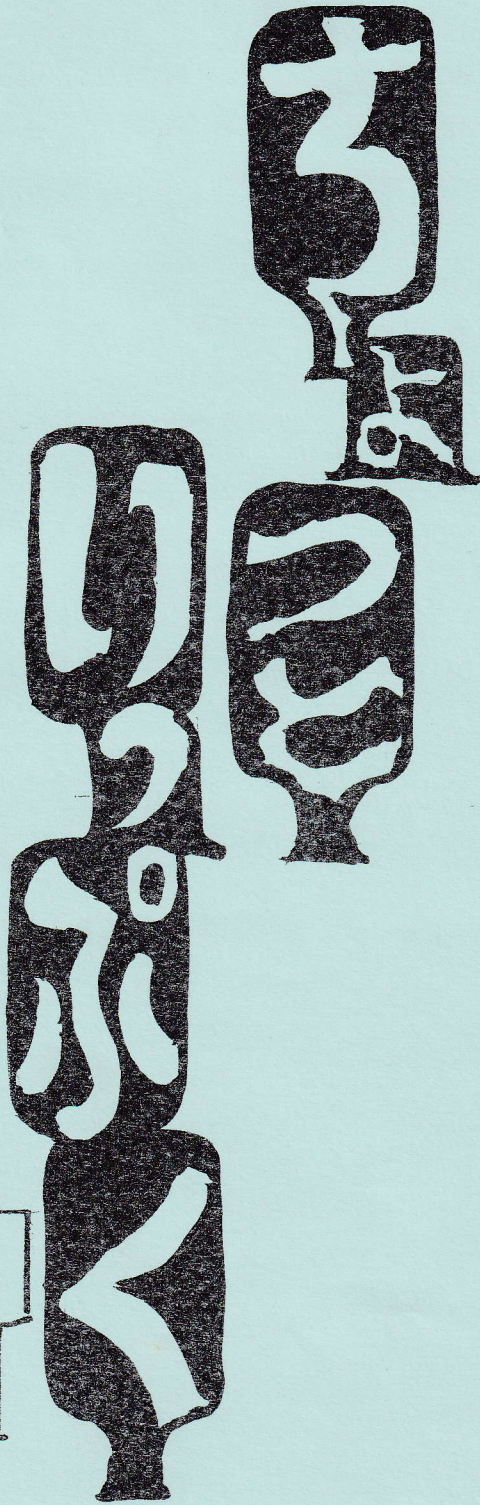
『えーとここまじ 後3月に』 『も 1期どげーな』 向けた水は丁寧に断わっち 新しい人材生かすが得策。とかわされたけんど それだけ心くばりする謙虚さも。『じゃなえ いったきよこちこんだ又』 『いんげとな もうコラエヨ』 笑顔にゃさすがに安堵の色も灰かに。

つつろく人生ち言う人間社会 そん一角じ見た人生ん裏表も ととても勉強になったんで。生きている間は勉強することじ 自分の心身も浄化さるるもん。オーキニダンダン。器用にミシンの軽やかなリズムに 鼻唄も聞かれる窓際に 季節の花一輪が揺れていた。





M

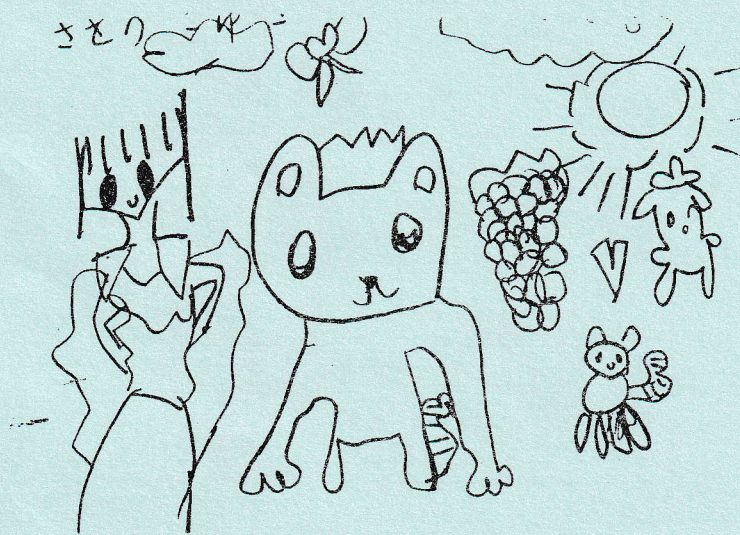




五助さんの話には いろんな話題が飛びかう。方言カルタも時代に合わせた 風刺が入ったりするけれど 方言が入ると趣も変貌する。『ちよいと話』も 何でもない些細な話しでも 味が出たり飾りがついたり 世の中妙味も加わるもの。

春の七草…7日の夜に悪魔がくるので 厄よけ草を粥にして食べると 護身になると言う。季節の春には七草も揃える事が出来る。まさに生活の知恵であり 生活からにじみ出た 知恵かも知れない。

- ★ 方言かるち
- ★ ちよいとばなし





『方言加留多』

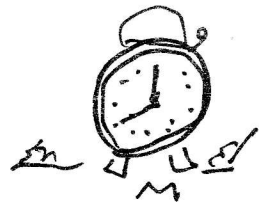
いっぺんぎし ゆうなる 人ん優しさじ  
ろくでんねえ のん 時にゃ役にたつ  
激しゅした いっ時よかろう あん味が  
にいったら 寝すりゃいと 孫ん守り  
ほてとしー だましするき 手がつれ

へもどっち ええと用事が 済んだのや  
とわず言う よりゃ取りあうな あげんしに  
ちしまわすな むげねーけんど 時による  
理屈だけ 通らんそりゃー ほげち言う  
ぬくもったんなら 早う上がらにゃ 風邪う引く

留守番が やしぼするんな 困りもん  
おずかった おけのん暗すみ 水まわり  
わだとした それでんけっくしゃ ゆう出来ちよる  
かたぐりゃ 一荷んごたる ろくでなし  
よくしゅうん 知らん所が 抜けちよるき

足しにゃならんが 使う用事にゃ 役いたつ  
れんぎにゃ サンション 香りがゆう似合う  
そげーせかすりゃ 違う所い 入りこむ  
つくれんこつ 考ゆる ごくつぶし  
ねきんしん 落としたもんが 儲けもん

投んこんだ はずがはずれち へもどった  
らいしんも ありしこ分けち くんなーえ  
むげねーも 時にゃ 罪なこちーなる  
うたちげねー 知らんふりも 出来んきな  
いのちきゃ しゃんとせんと恥じゅうかく



のうなっせん そりゃ一身ごのみ こらえにゃの  
おっちょこちょい 時にゃ 役立つこともある  
くえつうが えーとゆうなり 水が来た  
やんがんも けっくしゃ大けな 道具じゃの  
またくろう うぶ毛がすずし 年ころに

けたくそん 悪い事せん こらえにゃの  
ふんどのや これも世間の 通り雨  
こんげさね くるかん知れん 帰り客  
えーとこせ 日暮れに済んで 影障子  
てずかみん 心が通う いなか餅

あんげこんげ つくる回しち 福が来る  
さらけで一ち ちらり見えたど あんくぼみ  
きさいいが あとん始末あ しょうわね一か  
ゆう見ちよりゃ あれも年頃 親に似ち  
めに涙 こぼるるごたる うぶん顔

みちよれち こぶんにぎっち はげらしい  
しとうせん 一人じゃ出来ん へぼ将棋  
えらそうに しゃべるふりしち 出来もせん  
ひずかった 足あたごかす やけはたも  
もももぐっち 燃えさせんごつ 火を消さにゃ

せんちんの 影じ帯とく 二人連れ  
すんだあと ぐあゆうせんと おおごとど

もたち一ち あんげ失い こんげ消え 方言を使ったいろ  
は加留多ですが いかがでしたか 愛読者の皆様には 全部  
精通されたでしょう。後先につく言葉で 理解できると思  
います。

五助さんがん話が始まると もう遠い所んしもチョコット聞こうかち来る。

『イラ』ちゃ何のことな…こん方言なドウヤラ 大分県だけん方言ち言う。全国的にもメダシイ方言 こりゃチツタ自慢して一ごたる。じゃけんど正確にゃ 海う越えた愛媛県の海べん方も 使いよるき『ウツドーダケ』じゃ ねえかん知れん。魚んウロコん事じゃが……四国んしが海う越えち アンゲコンゲするき 一緒に使おうえち言い出したんかん知れん。

詳しい先生の話によりゃ イラカ…《瓦》かるん語源のごたる。そげ一言ゃう瓦ん格好と 魚んイラが ゆう似ちよる。雨どま降っち流るる水が 魚んイラう上手に伝うち まゝ美しいもんじゃき そげな言葉になったんじゃろう。魚ん『エラ』が…イラ…になった。ふんとそげ一言ゃうそうかん知れん。

『オモシリー』…これも大分県ぬ縦割りに 分けちよるき面白い。大分県ぬ国東半島ん 半分をそのまま南に下がっち佐伯まじおれた。所がじゃなゝ そんな東半分な〇オモシレーち言うが 西半分な〇オモシリーち 使うきなゝふんと 方言な馬ん背も分けたんか知れん。※ こりゃー昭和30年頃調査ん資料かる。

そしち四国でん分けち使う地区があるき 面白いこち一なる方言の流れ。人の心ん情愛まじが お互いに引き付けあう。昔かる荒波うケタテチ 行き来しよった人ん交流 そげ言うゃ嫁さんの興入れも あっちこっちあるき イケウチ同志ん巡り愛もあるんじゃろう。

もひとつついでに『メンドシイ』…メンドウクセーとん言うけんど 古い辞典によりゃ 『見苦しい』『顔うそむくる』

『恥ずかしい』ち 恐縮するごたる意味になるけど こりゃ主に50歳ぐれ一かる上んし。それより若いしどもは 『めんどくさい』で 一蹴するごたる意味になっちよる。同じ方言でん そんな土地により使う年齢層によっち 発音が違うなゝそれだけ世の中が進歩しよるんじやろう。

昔かる日本語にゃ想像力が 豊かに入っちゃつたき 一つん言葉ゃ聞いてん先の先まじ 読み取るる事もありゃ 謎かけられち困る事もあった。使い回しによっちゃ上手に 断り代弁もしちくれ 発音や高低によつてん 意味がちごうち来たり 心ん中まじ汲み取るる事もあった。

悔やみに行つてん『誠に……』あたりまじゃ ゆう意味も解るけど 後は意味深長な綾なす言葉になっち それじあっち 気持ちゃ表現されちよる。声と顔色と目くばり 目のつかいようじ相手に通ずる。言葉た一方言た一マコチ ゆうしたもん。やっぱ昔かるん生活用語じやのう。

身体についた呼び名でん『月』編が ち一たんがとてん多い。人間が生まるるなゝ月ん 満ち引きにん関係があるち言う。心を中心心臓、肝臓、腎臓、これなんか皆月偏がついちよる。女ごしん整理も昔しゃ『月厄』ち言いよつた。戦時中にゃこんだ『旗日』になつた。戦争は志気ゃ鼓舞するきでんある。

『月がついちよらんじやねえかち』『そりゃーそうじやろう月夜じゃ危ねえじゃねえな 晩な寝ちアシタン朝かるまたしゅうえ』 そんなくれ一ノンビリシチョリヤ 戦死もせんじやつたるうになえ いつも戦死するなゝ決まっち ええもう先お言わんでん解ちよる』『言わんが花か』





でーぶん昔んこちーなるが 『お父さんはお人好し』ち言う  
ラジオ放送ンドラマがありよった。花菱アチャコ、浪花千栄子  
んコンビじゃつたが 子供がなんと12人。芝居じゃきでんある  
が 昔ん話しじゃき12人ぐれーは あんまりタマガルホズ  
んこたーねえ。

そん最終回にゃ『四国遍路』に出る設定。それにゃ行く先先  
ん寺やら宿やら 決まっちゃつたんじゃろう。12人の子供た  
ちゃそん宿宛に手紙う書いち 送っちゃつたち言う。なんとん  
涙誘う物語りでんある。独特な浪花言葉が入っち 芸達しやん  
二人ん芝居放送にゃ 毎回笑いと涙も誘いよった。

昔桑原ち言うところ夕立雨う降らせた。そん時い親雷んそば  
じワヤクしよったんか 足う踏みはじーちコケオテチシモウタ  
。そこは桑原ち言う田舎じゃつた。がそこん百姓さんたちゃ  
そん雷ん子を大事にしち 何日かした夕立ん時い親雷が そん  
子供う連れち帰ったそうな。

けんど雷も子供う助けちもろうた 恩があるもんじゃき口に  
こすは 言わんじゃつたが『子供う助けちもろうちオオキニ』  
『あんたどうにゃ絶対迷惑かけんき』ち 言うたかどうかは  
別としち それかるはここにゃ雷りゃ 落つるこたー勿論ん  
のこと 稲光やら雷が鳴ったら『桑原桑原』ち 言うとそこにゃ  
落てんのと。

それも方言じ言うもんじゃき 親しみがあっち心が浮き浮き  
する。怒りとうでも『もういいか』になる 方言たーこげな役  
割もしちくるるごたる。桑原以外んしでんゆう 雷が鳴ると言  
ぬう聞くと ご利益があるんか知れん。桑原んしにゃ濟まんけ  
んど コラエヨナ。雷もそん声う聞くと身の毛が よだつち言  
うきそん気持ちもゆう解る。雷が落てた所お作物んが ゆうで

くるんと。そりゃいっぺんに土ん消毒するきか エネルギーがそれだけ強いき 効き目があるんじゃろう。あるスポーツん選手が練習中に 雷に打たれち氣絶したが 息を吹き返したところ元氣モリモリになった。エネルギーが全身にパワーをくれたんじゃろう。

雷が落てた場所にゃ稲もゆう出来たき 稲光りち喜かうだ そうな。それだけ稲ん發育にも よかったんじゃろう。桑原んしが雷坊やをゆうみち 喜ばれた雷と人間の関わりが 今見直されよるが 自然に逆らえられん人間の 弱さも浮き彫りされたと言える。

自然界は人ん力じ入れ代わる事もあるけんど 手をゆるむりゃまた元に戻るもんでんある。無理をしち人間の勝手にしてん 自然の力きまり摂理は バネと一緒に手を心を緩めりゃ また元に戻るき無理は禁物でんある。それが自然界にある で一じな事じゃが人間の 勝手気ままがちっと 大きいごたる氣もする。

手を入れち加工するな品もいい じゃが飽いちしまうとすぐ 捨てちしまう贅沢な時代になった。辛抱と節約た意味が違うに 間違えちよるしも多いごたる。捨てられちそきい残る価値んあるもんは 昔かるあった心に残る 物こそ大事なもんじゃなからうか。

そしち命を守ちくるるもんが 一番しまいまじ残るち思う。そげな中に生活用語ん方言も ちょこと入ちよるき 誠ち頼もしいち思うが どうじゃろうか。元氣じ親子トギがおるなんか ものすごーいんじゃねえ。あん悪口言うちくるる そんトギア宝物んでんある。



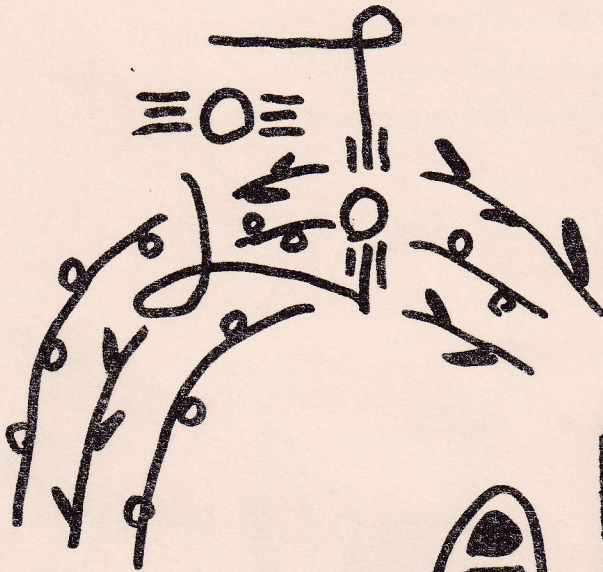
為 曾 志

俠

公

世

恩



A



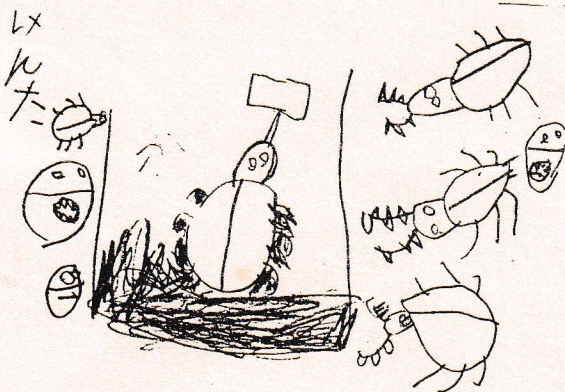
野津原地区の子供を総称して『のつはるっこ』と呼ぶが昔の赤坂川が『ななせがわ』になって 通称七瀬の里から呼ぶことに元があるよう。周辺の谷川から流れこむ せせらぎの水音の爽やかで 涼しく感じる響きのよい名前でもあるだけに 故郷ネームとしてぴったりでも。

素朴で優しい心を受け継いで 人数こそ少ないがみんな相手を大切に想いあう 子供に育って来た。保育所から幼稚園 小学校と殆ど同じ顔ぶれだが 中学校になって4つの小学校が勢揃いする。成長の過程で故郷のさまざまな 移り変わりにいろんなことを 身につけ故郷を愛し大切にする 夢多い人間に育って来た。

『あんたかたどこさ ひごさ……江戸期の肥後領時代の名残りも懐かしい 童歌は今も時折聞かれて 哀愁もそそる。

★ 優しい心が行き来する  
子供とお祭り  
雪の日のだいこん洗い  
水車小屋のクモのエバ

4編が 登場します『方言子供の世界』





『優しい心が行き来する』

学校かるん帰り道じ 慌てちころげた春ちゃん 滲み出る血をジワット拭き取ると 痛さを堪えちビック引きながら おかしいぬ隠すごつ歩きよつた。角う曲がった時じゃつた。顔見知りん 百姓んオイサンが 痛そうな春ちゃんを見ち 『どげーしたん コロゲタンカ』『…………』 春ちゃんは答えが出せんもんじゃき 黙っち頷じいた。

『ありゃー血が出ちよるじゃねえか そうじゃチョイト待つちよれ』 オイサンは急いじ家に帰ると 薬と絆創膏をもちち来ちくれた。春ちゃんな痛え足う 我慢しち歩いたもんじゃき チット『ズキンズキン』しよる。そん痛えんが頭に伝わちくるごたる。

家かる薬うもちち来ちくれたオイサンが 『どれ見しい薬りゅうつけちゃろう 消毒するかのう』 薬ん匂いに春ちゃんは顔うしがめち 目を絞った。器用に消毒しちくれた後 薬う塗るとテープを貼ちちくれた。オイサンが手元う見ち 春ちゃんは 痛えけんど嬉しいきい 痛みう堪ゆると『おおきに』 それだけ言うと 二人は顔見合わせち 苦笑い。

『どうか 痛えか』『いんげ』 我慢した声に オイサン 頭お撫ると 『気をつけち帰れや』『あい おおきに』見送るオイサンが 春ちゃんにはよつぼず 嬉しかったごたる。頭をびこんびこん 下ぐるとちっと痛む足う 交わしち歩いた。『早くゆうなりゃいいが』 春ちゃんなそれが心配じゃつた。ひみんどしいとも思った。

家に帰った春ちゃん おかしかったけんど みんなに話したら 『そりゃよかったのう』『みよ日頃嫌われんごつち

よったきど こんだ恩返しせにゃのう』『…………』春ちゃんもそげなこつー考えもしちよつた。じっと絆創膏を貼った所々見よると 『大人はなしあげー 皆んなん事う心配しちくるるんか』 ち思うた。

次日に学校帰りにそん オイサンかて寄った春ちゃんな 留守しちよるち言うもんじゃき 『きによう怪我した時 世話になったお礼を』 ゆうたら 『まあ感心な子供じゃなあ』 オバサンがとても 喜んじくれた。『どげーな痛まんじゃつたかえ』 春ちゃん まちつたー痛いけんど 『ゆうなったんで』 そう言うとオバサンも『そりゃよかった』 ち喜んじくれた。

『そうじゃ いいもんぬあぎゅうか』 奥にはいるとオバサンが包んだ物を持って来た。『あんた優しい子供じやき ご褒美にこりゅうあぎょう』 包みを開いたら中から 御守りが出た。『御守りは これかる怪我せんごつ 帳面は勉強に使いよ』『いいんな 貰ろうてん』『いいでオイサンが 誰にやろうかち 言いよったんじゃが いい時に来たんも 巡り合うたんじゃな』 オバサンはそりゃ嬉しそうに笑ろうた。

『帰りにお礼に寄ったら これ●くれたに』『なにや又お前ゃもう』 親もどんくれー嬉しいか 子供が素直に育つちよるき 自分じお礼に行ったんじゃろう。それに又相手も ゆうしちくるる。こげな嬉しい事ぁ 大事にせん と。教えんでも自分じ 勉強する気持ちん 有難い事が。



## 子供とお祭り

子供にゃ切り離せられん 楽しみん一つに祭りがある。楽しみん少ねえ百姓にゃ家じしちやれん 楽しみちゃお祭りぐれえかん知れん。お宮ん森に織り旗が建つ 風に旗を留めた環が揺れ カタカタ音が遠うまじ聞こゆる。親ん言うこつ聞いちょかんと 銭う貰いださんかん知れん。ち張り切る。

神楽ん拍子が聞くゆるともう 落ち着いち夕飯も食いよらんき 親が気を効かせち『遅うならんこつ帰れや』『うん』 返事もそのけじ ビラビラ飛うじコッケムショウ お宮に行くんが手に取るこつゆう解る。皆な子供ん頃あそうじゃつたち 苦笑いしち送りで一た。

『小遣いやったんな』『2銭やったど』『…………』 母親はもうそれじ いいとん悪いとん言えんじ 恨めしそうに親父ん顔う見た。そんくれ一ありゃ子供あ あた一諦めもするこつ日ごろかるんイノチキが 身にしゅうじよるき そげ一少ねえとん思わんじゃろう。

子供あまっ先 汗ん出るこつ握りしめた 銅貨を落としちよらんか もいっぺん確かむると 店屋ん前にたった。祭りらしい子供向きん 駄菓子やら くじ引き 安いおもちゃ そげな中かるヨリデーたが 結局はニッケ。ニッケん木の根を掘っちぐあゆう くびった ただそれだけじゃが 祭りん子供ん気持ちゅ 引き付くる。

くびった束ん紙うアラムト ほじくと一本口加えち 残りあオトシせりくうだ。見らるりゃ欲しがる子もおる。口に入ちるんまじゃ 『くりー』た言わん。風船がついたのを ぶっと膨らませち口う離すと プア…………心地いい音う鳴らけ一ち聞こえた。

ニッケーに人気があるな わりかた安い事もあるが 馴染み  
やしいかるかん知れん。ニッケーが材料ん子供向きにゃ こん  
ほか 紙に染みこませたニッケ紙。瓶に香りと色をつけたニ  
ニッケ水。黒砂糖 飴混ぜち貝殻に詰めたニッケー。こげ  
なもんが田舎ん祭りん 子供向きにゃ最高じゃった。

ちっと上品になると 小麦粉 飴 といも 飴 黒砂糖 飴 芋 飴  
が 粉を上手にマブシチ トタンの箱に行儀ゆう並っじよる。  
竹の内の坂口い『庄さん 飴がた屋』が 水 飴 曝すに柱に打っ  
た釘に ぺたっと引っかけち 力ゆう引っばる。そりゅうなん  
べんもくり返しちゃ 色が白っなっちゆく。

子供が買いに行くと『ゆう来たのう ほらオマケ』ち こぼ  
くれたんぬ1つ 紙袋に入れちくれたもんじゃった。たったそ  
ん1つがそりゃもう なんびん変えられんごつ 子供にゃ嬉し  
かったもんじゃった。祭りん店じゃそりゃー 人目があるき無  
利じゃったが 帰りまじおると 『飴買うたんか 早っ帰れや  
1つ口いれちょけ』 人ん情けはこげな形じ ゆう見られた。

まあこん日は商売もよかったんか 掛け値もしたじゃろうき  
それとん 神様んおかげかん知れんが。神楽も蛇切り頃いなる  
と ちょろり酔いん回った 気前んいいしが知っちよる子供に  
お菓子なんか買っちやりよる。点数稼ぎかん知れんが 気持  
ちが浮くと財布ん口も緩くなつた。

子供ん食い物 自然食じゃき 小少な事じゃ病気もせんじゃ  
った。ちった青いうちかるチギッチ食う。季節ん食い物 果物  
手あたり次第 大げなしかる習い体験しち こんだこんめ一子  
に教ゆる。昼あいだ暴れ遊ぶもんじゃき 湯にも入らんじ寝ち  
しまう これも元気な証拠でんあったごたる。





## 『雪の日のダイコン洗い』

お文は子守奉公に出されち 子供ん眠ったアイマニャ家ん  
こつーもユウスル 働きもんじゃつた。今日も雪がチラチラ  
降っちょるき 外は寒いごたる。流れ水じ洗うダイコンな  
指先まじコゴユルゴタル。泣きてーごたる気持ちでん 涙が  
コボルルゴタッテン 自分が働くんが生まれた家が みんな  
イノチキン出来るタシニなる。

そげなこつー考ゆるもんじゃき とてんユウ働き我慢もし  
よった。今日も えーと言われた20本のダイコン 美しゅ  
なっち並べち見た。『えーとすんだ』 腰っ伸ばしち濡れた  
手を マエカケじ拭きました。真っ赤になっちよる冷て一手  
を じっと見りゃムゲネーとん思う。

そん時じゃつた。小雪ん道っトボトボ歩いち来る お坊さ  
んがおった。ダツタンカ足取りがオシイ ユックリ歩いち側  
まじ来ると立ち止まった。ペコリ お文が頭っサゲチお辞儀  
っすると お坊さんもそりゅう見ち 『こん寒いに冷たかつ  
たじゃろうな』ち 優しゅう言っちくれた。

『はい デンこれが私ん仕事じゃき』『そう』 深く頷き  
感じいったゴタル笑顔になった。お坊さんが『おいしそうな  
ダイコン』ち じっと見つめちよる。そしち『一本もろうて  
んよかるうか』 イマシガタ洗ったダイコンに 降る雪がマ  
ッシロウ積みはじめちよつた。

キョトンとした お文が返事に困ったが お坊さんもヤッ  
パ腹が減っちょるんか 『よかったらどうぞ』 チ 大きい  
ぬう差し出えた。勝手にあげチャいけないんは解っちょる  
けんど腹を空かした こん人にどしち断ラリュウ。ヒモジイ  
グレーひじい事ぁねーぬ お文は身にシミテンオル。

『イヤ コンメーノジイケン』 大きいのを押し返すと  
コンメーヌ指指した。お文も無理う言うてん悪いち コンメ  
エヌ取り替えち渡した。受け取った お坊さんは 一口食ぶ  
ると寒い雪ん中じ齒に染み渡る。コリコリ心地いい音が 周  
りに響きわたるごたる。お文も嬉しそうに見惚れた。

ニッコリ笑うと 残りは懐に入れた。『あなたは 小さい  
のに優しい子供じゃなァ ここん人もユウシチクルルでしょ  
う』 『はい』 あまりにも嬉しかったんじ ニッコリ笑う  
ち答えたもんじゃき 『ふんと 正直な子供じゃこと』 と  
お坊さんも 笑顔になっち嬉しそう。

『これからも 辛い事があってん 頑張るんじゃなァ き  
っといい事があるもんじゃきなァ』 そう言う と 袖ん中か  
る取り出えた 貝殻に詰めた薬を 『ダイコンのお礼にあげ  
よう ヒビにゆう効くき 使ってください』 雪が又激しゅ  
降りて一た。『おおきに ありがとうございます』 お辞儀  
しちあげた頭 あら お坊さんの姿がかき消すごつ 消えち  
しもうた。

雪が降るからか どこにも姿が見当たらない。無事に歩い  
ち行ったんか……お文はイツマデン 見えぬお坊さんぬ 見  
送りました。不思議な人に出会った こん話を ダイコンぬ  
ザルに入れち 台所に戻ると 奥さんに申しあげた。きっと  
叱られるじゃろう。そりゃー覚悟しちよつた。

『勝手にダイコンぬ あげた事やら 何とん知れん薬う 貰  
った事なんか』 じっと聞いちよつた奥さん ニッコリ笑顔  
をハチキルルゴツ しち 『お文 やっばウチジ奉公しちよ  
る いい子じゃつたなァ』 『旦那さん チョイト来て』  
もう嬉しい笑顔が 家じゅうに広がった。



『どげーしたんギユウラシイノウ』 旦那さんも何事かち  
来たき 奥さんが『これこれシカシカ』ち お坊さんとお文  
ん事う申し上げた。『そりゃそりゃ よかったのう 内ん奉  
公人がそげな イイコツシタ お前ん躰がいいけんじゃの』  
奥さんも旦那さんに褒められ 隠居部屋ん おばあちゃんも  
ギユウラシイ声が耳に入ったんか ヒョツコヒョツコ来る。

『お文 やっぱ見こんだ子じゃつたのう』 おばあさんも  
自分の孫んごつ 喜んじくれ『おじいさんが 帰ったらまた  
喜ぶよ』 もう家の中笑顔にヒックルメチしもった。お坊さ  
んなドコマジ行ったんじゃろう 一晩でん泊めてあげたかつ  
た そげな思いが奥さんも おばあさんも お文も 女らし  
い思いにナッチョツタ。

昼前になっち山かる おじいさんも帰っち来た。『寒い  
のう今日はチット ヒビが元気でえち』 帰った おじいさ  
んぬ迎えた お文は 『おじいさん お帰りなさい ヒビに  
ゆう効く薬 貰ったきこれ使うて』 今朝お坊さんに貰った  
貝殻入りん薬 差しでたもんじゃき 『こげないい薬どげえ  
したん』ち 目を見張った。

おじいさんの話じゃ めって手に入らん京にある薬。そり  
ゅう聞いた家族はマタマタ たまがっちしもった。もしかす  
りゃあんお坊さんな きっと仏様じゃなかつたろうか。お文  
ん優しい気持ちに ご褒美ちクレタンカン知れん。話を聞く  
家族も お文ん働き振りち言い 優しい心ち言い 『うちん  
福の神じゃのう』

お文も『いんげ こりゃーココンシのムドガッチクレタ  
仏様んご褒美です』。よかったのう 今頃あんお坊さんな  
どこを歩いちよるじゃろうか お文は目をツブッチ見た。

『水車小屋のクモンエバ』

水車ん白がキューキュー回るたんび クモンエバを粉が白う  
浮き立たせち 美しい網模様を見せちよる。松子は粉挽きん番  
ぬ 母じょうにたのまれち 学校が休みじゃモンジャキしよっ  
た。ここじ待つちよると 米つきん おじいさんたちん話が聞  
かれち 思わん時間がたっちしまう。

真剣聞いちよると時折吹く風に クモンエバが揺れちそん度  
クモも 飛ばされメードチ真剣シガミチーチョル。流るる水う  
使うち歯車を動かす それじ粉を挽き米うつくぬー ゆう考え  
たもんじゃち思う。あれだけん白う動かし 旨い具合に力を使  
うなんか 思いち一たもんじゃち感心もする。

昔大雨が降っち大水が出ち 田んぼやら家やらが流された。  
大けな石もゴロゴロ転がっち来た。村ん知恵者が『こげん力ん  
ある水なら 水車を作っち使ゃ何か使えんか』ち。クチナシン  
花を串いせえち石と石いかけち見たらユウマワル。こりゃあ  
使ゆるどち 思うと大工に水車お作っち かけちミタトコロ  
なんとクルクル回るのが解った。

何べんも失敗したけど そんうちにゃ都合ゆう役い立つ事  
が解った。松子はじっと聞いちよつたが やっぱ頭んいいしが  
思い付き 腕んいいしが作ったんが解った。『ぼちぼち粉がで  
けたごたると』 『ふんとオオキニ』松子は今聞いた水車ん話  
しゅう 帰っち話した。

『知らんじゃつた事う聞くなあ恥じならん』 知った振りす  
る事こす世間知らずになるき。親に褒められたもんじゃき も  
ちっと聞きて一ち思うと よこいん時にゃ車に行くで ち話し  
たら母じょうが笑うち 『オトロシュ車が気に入ったな』ち  
笑いで一ちしもった。



夜が更けた頃じゃった 『もう食べたかえ』『済んだで何  
ごとな今頃』『いんにゃ 昼間聞かれたもんじゃき 苦にな  
っち ジイサメー聞いち見たんじゃ』『なにうえ』『お前か  
たん孫んごが 車じあんまり熱心に言うき 車んこつ一話し  
たんじゃ』『あゝそれじゃつたんな 帰りよせんコゲコゲち  
言うもんじゃき』

『そりゅう話しちゃろうち 思うち来たけんどうも 寝た  
かな』 そんな声に松子は飛びオケチ ナイショに出ち来た。  
絵に書いち持ち来ちくれた 水車んあらましがひり一紙に  
くわしゅう 書いちゃるもんじゃき 松子はタマガッチしも  
った。聞いた上にワザヤク晩にまじち。

『ほら見よ こげんふうになっち水が力を寄せ集めち 車  
を動かすんじゃきのう』『わゝーゆう書いちゃるなゝ』感心  
したごたる 目の色に持ち来た おいさんも嬉しそうじゃ  
った。『子供ゝいいのう 夢があっち こげな子が先じゃ又  
いろいろ考え出すじゃろうのう』

ガタガタ音がする水車 そこにゃ米つき、粉挽き、小米す  
り、麦つき なんかが毎日されよる。機械は休みなしじする  
んも 水がアルキコス。それも恩に着するでもねえ ごく自  
然に流るる水う使いながら ごく当たり前んごつ皆んなが  
助けおうち回りよるんが 有難いことである。

そんグロジコンメー虫がイノチキ クモは網う張っち飛ん  
じ来る虫を。回り回る自然の中じイノチキが 当たり前んご  
つ繰りかえされちよる。松子は又ひとつ勉強が出来た 粉を  
挽く間ん自分の勉強は こん時に巡り会わせたからかんと。  
ゴットンゴットン何食わぬ振りしち 今日水車は回っち。

野津原にゃ水ん力を利用しち 水車ち名のつくもんが100  
ぐれーは あったけんどそんうち 自家用ん水車が30ぐれ。  
賃ぬ貰うちするんがチットあっち 荷を取り来ちくれ出来たら  
持ちくるる。共同ん水車は皆んなが 都合んいい時いつカイ  
ヤイコする。そん代わり故障したら皆んなじマカナウ。

荷物ち持ちこんじシチモラウンが 一番多かったんもイノチ  
キ なかりゃならん食べ物。車使い手がおっち頼んじょき  
責任ぬもっちしちくるる。つき賃スリ賃なんかは 現金の少ね  
え百姓相手じゃき 米じ引きさるんが多かった。水車じゃ主に  
粉挽きが多いが そん頃ん家にゃ米つき臼は ある家が多か  
ち壁なし脇いちゃんと作っちあった。

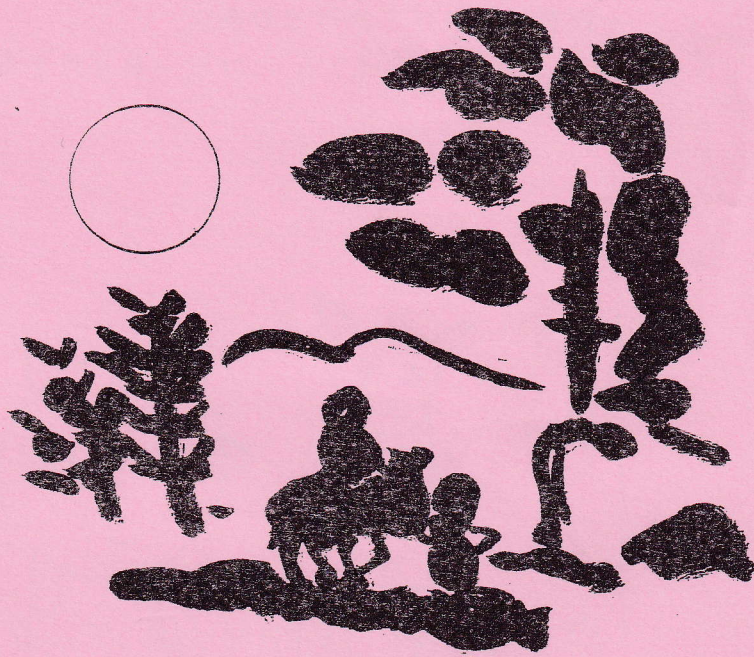
水車ものちーにゃダービン式したり ハイカラも出来ち動力  
ん利用が スマートになった時代の 移り変わりが歴史になる  
。

それでん片へらじクモンスは 昔も今もアルキ懐かしい存在  
でんある。松子が見たクモンエバも 昔んしもヤッパミチョツ  
タじゃろう。戦争ん頃にゃ米も一升瓶にいれち 木の棒じ夜な  
べ仕事についたもんじゃが。今じゃコジンマリ小袋じ買って  
え はず どんくれーでん売りよる。そしちこん頃ん研がんでん  
炊かるる米まじあるち言う。

水車にゃ今日も懐かしい音が 懐かしい風景が見らるるんも  
やっぱ 粉んちーたクモンエバにゃ 人ち恋う優しさもあるご  
たる。松子もヤンガチどこかん誰かと 所帯を持つじゃろう。  
台所じ食事ん支度に米研ぐ時 あん水車を思いでーたら 夢も  
ホンワカ膨らむんじゃあるめーか。



# 五助街道語





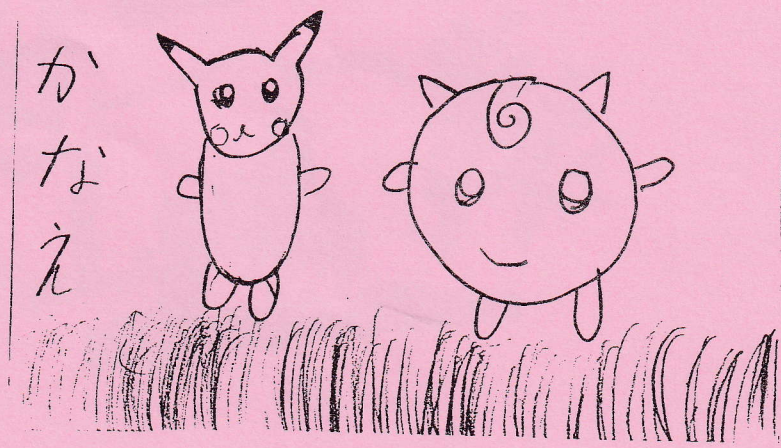
肥後街道で人気者だった 馬子の五助さんは人情こまやか  
で『嫌』と言わない 便利屋さんでもあった。情にもろく心  
優しい人柄が 多くの人たちに愛され 大切にされていた。  
話上手で聞き上手でもあったから 話題はつきない街道の  
万年暦 知恵袋でもあった。そして頓知者 時にはちょつび  
り色話も……。

★ 白い手ざわり  
そりゃまゝそうじゃが  
変な憶測  
いっぺん使わしいう  
五助ん米ん粉だんご

無精髭がよく似合う顔は 憎めない存在があるから不思議  
若い人から 年寄り子供 女も男も 誰でも相談したり 聞  
いたりまさに 便利屋さん 万年暦。

“秋葉越えれば 火伏せの森に

フロー煮えたか諏訪の灯じゃ”





## 『白い手さわり』

『なるたけ見られと一ねーじ 上手になりてー』 そげ一思  
うと無理頼んじサセチもろうた。『すまんなえ』『いいんで始  
めてなら誰でんいっしょちや』 気持ちゆう引き受けちくれた  
に 甘えち気が悶ゆるごたるんが 自分でんゆう解る。『そく  
うはぐっち そうそうシャント握っち 腰う構えたほうがいい  
で』 もういい年格好になると 慣れたもん ドンテでん来い  
ちゅうようか顔。他んしにもさせたらしい。

そう別品じゃねーけんど 愛想がいいもんじゃき 近所んし  
かるも好かるるし 遠う近うしても評判ぬ知っちょるき 『あ  
んしな』ちすぐ解る。ソんシガ相手に教わるもんじゃき そり  
ゃ上手になる事じゃろう。腰う構えち握りしめち 『真ん中お  
めがけなえ』 見ちよるとヘッピー腰ごとなある。が始めち  
なら 気も弾んじょつち仕方ねえかな。

じゃけんど始めんヒトツキゃ なかなかいいごたる。思わん  
気合いが入っち湿りう誘うた。回りを両手じ寄すると 程いい  
白い盛りあがりが高う出来た。『ケツクシャウマイコト』  
始めちにしちやお上手ち言いてーところじゃが やっぱ始めち  
らしいコツん掴みどころがねえ。

が何べんか上げたり下げたり ソウコシヨルうち回りも湿り  
程いい 粘りが握りしめた手元ち 曳きずりこまるるごたる  
まじいなっちしもった。息使いも荒うなっち『もういいで』  
そげな声が聞かるりゃち 思いよるごたる目使いに 『まあ早  
えで』ち言わぬばかりん かけ声が耳元に聞こえちきた。

『思い切り腰う据えち頑張らにゃ』 握った指先が離れんご  
つなる感触に 足が震いだした。『なんな震いよるんかえ』

『そりゃそうじゃがえー始めちじもう』『ショワネーナ』  
顔いたきまあ元気はあるごたる。弾んじゅつたものやっぱ  
思うたはず……『見なよこげー美しい色 粘りが出たで』  
見ると 真っ白ん輝きが目に眩しいごたる。こげな喜びうな  
しマチット早う習わんじゃつたか。

仄かな香りが回りに流るる そんな匂いだけでん『よかった  
嬉しい』ち 思う男ん幸せち言うんか。盛り上がった弾力ん  
ある柔肌ん 宝物でんとった喜びも滲みでた思い。『もうい  
いごたるで』『これじいいんな』『どうな楽しかったんな』  
『うん………』『しよわねえな』。

言葉も出らんごつ感きわまったんか…握り占めた手元がま  
るじ固まったごたる。『手が離れんに』『始めはゆうあるん  
で ショワネー離るるわな』『離れんと困るがえ』『そりゃ  
まあそうじゃが』 えーと指一本ずつ離しち杵をおくと 白  
ん中に今つきあがった餅が 真っ白い娘の肌のような美しさ  
を 見せて頑張った若い男しに 感謝しちよるごたる。

器用に回りに水を回して餅を一ひねり サッと取り上げち  
取り板に移したつきあがった餅。湯気が立つ初々しい白い餅  
に 初体験の男が賭けた執念が いまみのった刹那でもある  
。やっと覚えた餅つきも してみると苦勞も技術もいるけん  
ど そりゅう覚ゆる事じ知恵もち一た。

相手を気持ちゆう引き受けちくれた 人ん優しさがこん餅  
にゃやっぱ 宿ちよることじゃろう。白い肌にも似た餅  
う見ちよると なんかあれこれ連想しち 一人笑いしよつた  
ら 『女ん子んあっへんぬ思いよるな』『………』『ほら  
図星じゃろう』 餅つき場は笑い声に包まれちよつた。



『そりゃまあソウジャナ』

こん前に2両じ買うたんが チットコンメーキ大きいのと  
変えちもらおう。馬子がそこん家にやっち来た。いい按配に  
こん家ん親父がおったき 話が弾んだ。『こん前ん馬チット  
コンメーキ 大ゲナシと変えちくれんな』『ほーな気にいら  
にゃ変えにゃなえ』

『いいこちこき大ゲナシガおるで』 見ると体格もいき  
力もあるごたる。『こりゃいいな けんど値もよかろうな』  
『そげんこたーねえわな お前じゃき言い値でんいいで』  
何と気前がいき そりー乗っち替ゆるこちーなった。『ど  
んれくれーオイを打ちゃいいな』『じゃなゝ 倍にすりゃど  
げーな』『……』 頭ん中じサンニューしよった。

『よかろう 手を打とうか』『いいで』 『ほんな引いち  
いぬるで コンメーなこきー置いちよくき』『サンニューし  
ちなゝ』いっとき考えよったが 馬子も頭ん回転がいき  
ツクレンネー事う 思いちーた。『4両じゃな こん馬を置  
くき そりーこん前あげた2両じ 4両になるきいいな』  
『そげんこちーなるなゝ』 ほんなこん馬お引いち帰るで』  
『ムドガンナーエ』『解っちよるきな』

こりゃ旨くいったど スタコラ帰りかけた。そんな時じゃつ  
たな。『まあ今日は日がいいごたるき 茶でんヌージ帰りな  
あ』 シモウタチ思うた。コリヤマア テッキリ気がちーた  
ち 馬子はチヨコツトひやっとした。けんどここじ慌つりゃ  
バルルき 澄まし顔じ 『ほうな ふんなヨバリュウカ』

腰かけち折角ついじくれた 茶をよばれたまじゃよかった  
が 胴巻が脇かるずり出かかちよる。親父がそりゅう見ち

『こりゃーチットセガウト オツチョコチョウじゃき調子  
乗っち 飛び上がるかん知れんち ダマシ大声じ言うた。

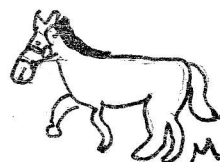
『そうじゃ お前』 あんまり大声じゃもんじゃき 本  
当に飛び上がった。そんな時、胴巻がズルリ……馬子は気がつきど  
ころか 『こん際じゃ 気がつかんうちイヌルに限る』 ち  
浅知恵。『もうイヌルデ忙しい仕事さ思いでたき』

追いかくるごつ親父 『今日ん儲けはお互いに なかった  
こちーして忘りょうえ いいっこなしに』『いいで ふんな  
サイナラ』 馬を引きよせん飛ぶごつ 走らせち帰ったが。  
馬も久しぶりに尻べら叩かれち 元気ゆう走った。見送った  
親父 クスクス ソシチ大笑い 『ふんともう……』

拾った胴巻ん中にゃ2両が光よる。『欲張りん罰があたっ  
たち考えつくかのう』 晩方えなっちショボクレタ顔さしち  
馬子 『ここらへんに 胴巻が そげんこたーなかるうな』  
『知らんで 落ちーたんかえ』 『いんぎゃ そげん気がし  
たけど ひよとすりゃ よそかん知れん』 『今日は儲か  
ったち 肝がオッキュウなったんじゃねえ』

ヒョカット親父ん昼間 『今日ん儲けもなかつたこちーし  
し いいっこなし』 そんな言葉がみように こびりちーた。  
ここまじ来りゃもう 男じゃ そりー自分がん悪知恵ん反省  
も ちった解ったんじゃろう。ここも負け維持ん張り合いじ  
『思いでーた いぬる時飲み食いしたぬ 忘れちよつた』  
ムゲネー言い訳に 親父クスリニガワライ。

ひつー泣かすりゃ穴二つ 自分も泣く目になっちよるんを  
ジメジメ 味おったごたる。





『へんな憶測』

『ヤンガン貸さんか』 ダマシ言られたもんじゃき タマガッチシモウタ。何でん貸しゃヘルし 貸さにゃ不義理になる。律儀者んじゃき言わるりゃもう 断わるにゃ相当考えち思いう巡らせちよつた。『貸してん減るもんじゃねーし 自分ももう何十年も使うちよっち そんな証も2つ出来たぬ見りゃ 減るどころか反対にイミッチも』

じゃち言うてん貸したんととか 使うたんととか そげん噂が outri ゃこれも 困ったこちーなっちしまう。そりゃもうカカンヤツガムゲネエコサレニ。ナッチシマウ。もう陽があがっち早う荷を作らにゃ 帰りが遅うなっちしまうし 貸せち言われたぬう知らんふりすりゃ もうこっちも気が落ちつかん。

相手も言うぬ待つちよるごたる 知らんふりゅうすりゃ 今まじん仲がもうトットしまいになる。隣どうしじふんとなえ そげんこつ一言わるるんも 面倒しゅうもある。後味も悪うじ往生際ん悪いやっじゃつたち 言われかねんこちーなる。『ほんなコイサでん使え 俺ももうエータキ』 ソゲンコターなんぼなんでん言えんしのう。

今まじでーぶんコソット使いよつたんか知れん 貸したんじゃろう…それこす オオゴチナッチ どけしゅうかのう。そげなこつー考えよるもんじゃき 返事がねーきヒョウイトスリヤ 貸さんのか顔う見た。そりータマガッチシモウタもんじゃき 『お前もどげーしたんか』 『うんにゃ……………』 『今朝慌てち来たき研ぐぬ忘れたんもんじゃき 切れあがっちしもうた』 『それじ…………』 『いんにゃ そうじゃき 砥石う貸さんかち』 『あゝ そうじゃつたのう 砥石か ほら こきーあるき』 たまがっちしもうたんな 二人ともじゃろう 言うたしも聞い

たしも 何かてえさいん悪い格好じ ムヤムヤニなっちょ  
る。『お前がんもで一ぶん使うちよるのぉ』『そうど使ゃ  
減るけんど辛抱しち 切れんので切ってん腕が痛うなるき  
やっぱ 切れたにコシタコターネエ』『じゃのや これじ  
ジャンジャン切れで一たごたる』

指先じそっと撫ずると感触じ解るもん。百姓は何はのう  
でん道具が肝心。『おおきに 助かった そりーしてん  
お前ゃサッキヤ何か おかしかったど 眠てーんじやねえ  
んか ヨナベガ過げたんじゃねーんか』『又トワズ言う  
もう飽いたど 同じ事んじょうじ』

口じゃそげんこつ一言うち 打ち消したがサッキマジン  
心んうごめきゃー ただ事じゃなかったに。でん友達たぁ  
いいもんじゃのう。『おおきに これじ早う荷が出来るき  
イネルルド』『ジャノウ 陽が照りで一たき ゴソゴソし  
ち下るかのう』

『昔かる かかぁ貸してん砥石しゃ貸すな』ち 言いよ  
ったが砥石しゃ 使うと目立っち減ってしまう。がそりゃ  
仕事うした証でんある。鎌も研いじ使う事じ自分の 値打  
ちゅう發揮も出来るもん。上手に道具を使うこたー 仕事  
上手ちいえそうじゃ。

仲良しん二人ん誤解もヒトハズミじ 事なきん難関ぬ越  
えちひと腰大けな上荷も出来た。そんな上に山ゆりが揺れち  
よるんは 『すまんつまらん考えゅ回した罰』ん 断りん  
花んみやげかん知れん。朝露に濡れた肌  
すり抜けち通る風が コンコロモチイイ  
元気じ働けるる証か 小鳥に見送ちくれ  
よる朝草きり。



『いっぺん使わしい』

『しゃんと広げんと新しいき なかなか開かんかん知れんど』『やぁちよいと恥ずかしいごたるのう』『ひよいと開きそくなうと 恥じだけじゃねえ 嫌わるるかんのう』 あら肝う取らるるごたるき いちべ気合いが入っちケバツタ。えーと開いたなぁ あん独特ん香りがプーント 鼻え来た。

『開けたんならモウショワァネエき こんだ横向きにやすんなや 横向きなりゃシズクが垂れち 濡るるとイチベエおかしゅなるき。折角貸しちくれたに ヒロゲキランデン悪いし 上手にサシキラニャ尚 格好がつかん事いなる。オマケンサンパチニャ 横向きしちシズクタラス それこそ最低じゅのう。

中ん方は暗うじゆう見えんけど 黒い所ぁ黒いなりに又いいもんじゅ。新しいななんでんいいもん スベスベシヨル手ざわり 香り 若えち言うか抱き抱えち来ち 『いっぺん使わせなぁち言うたに いいで ち気持ちゆう貸しちくるるそん 心くばりゃドンコンネエ嬉しい』

作ったしにしちみりゃ これが一番先だれが広げち サスンジャロウカチ 頭えあれこれ描いち 作ったんじゅろう。うまいこと一人前に開いたか 広げちサシチクレタカ そん時ん味ぁどうじゃつたじゅろうか。横向きなっち濡れちよりゃせんか。

濡れたな乾くちゅうたもんの 折角さしたに濡れたんじゅ品も シャシャリモネエ。妻皮んち一た中ハマん下駄に ゆう似合う蛇の目傘 そこにゃ日本人の心が 優しい気くばりがあるごたる。



『五助ん米ん粉だんご』

五助さんに無理言うち頼んだら 『いつかしちやるわな』  
ん返事に若い嫁さんもう 嬉しゅうじたえんじ 飛びあがっ  
ち喜かうだ。山ん仕事じいっときおらん そんなカメエこり  
ゅう習うち 味う覚えたかった。そしち帰った時タマガラカ  
ソウち 内心ウズウズシチョツタ。

久しぶり帰った時いシチミスリヤ どんくれ喜ぶ事かそれ  
が目に 浮かんじアレコレ夢う作った。いつ来ち教えちくる  
るんか そりゃもう楽しみじゃった。五助も仕事がせわしい  
き 天気ゅう見ち早う教えにゃち 気をもんじょつたが 雨  
でん降らにゃそれも出来ん。

いい按配に明日は雨ち西ん山が曇った。雨ん音がはげしゅ  
なった朝 ひよかっと五助さんがやっち来た。使うもんな皆  
そろえちやる 弾ずうじよる若嫁ごに 『ほんなはじむるか  
のう』 『忙しいにすまんあ』 気心ん知れた五助じゃが  
するとなりゃそれなりん覚悟もいる。

『お前 ほんといいんじゃの』『いいぐれ一か』 ちょこ  
っとうす化粧どましち やっぱ若えだけ初々しい。あれかる  
5日待ったき本当は もうマチクタビレチョツタ。けんどそ  
げー『まだな まだな』ち セツクト何かスカンタラシイち  
嫌われそうでんあった。

心がおちち一て相手う喜ばする 愛情ん目を閉じち側まじ  
寄ると そんな味うじっと食いてえ そげな手さばきがふんと  
鮮やかに あっち思う間に広がる。手さばき上手が味も決む  
るち 言うけんどマコチ ソントオリデンアル。見る見るう  
ち丸めあがった ダンゴが行儀ゅう並ろうだ。



女らしい匂いが雨じゃきいか 特別ゆう香るごたるき  
五助も悪い気はせん。『こんだお前 やっちみなあ』ち  
誘い水向けた。不安があんな皆んな同じ事 慣れちこす上  
手にもなる。『うっとお やっちみるわ』 白い手先につ  
く米ん粉が いちべえ美しゅう見ゆる。

『けっくしゃウマイジャネエカ それくれージョウズな  
らもう 一人前じゃのう』『チャーオダテナンナ』『うん  
にゃ こりゃうまいど……ほけなけりゃ一番』『じゃろう  
がえ』 『いんにゃ たしかにゆう覚えたもんじゃ』 顔  
につけた粉が ホーリャユウ似合う。

昼まじ覚えた『米ん粉だんご』う 『ほんな本腰作るか  
のう』 『ありゃ まあこりゃあ本腰じゃねえんな』『そ  
うとん そげー簡単にゃ出来んもんど』 手元に引き寄せ  
ち こなす手裁きかる腰ん入れ方まじ 教ゆるうちーいつ  
んなかめーか 肝心のコツも覚えたごたる。

『やんな素質があるど ちったシタコトガアルノウ』  
五助さんの見た目からは 前に習った事があるごたる感觸  
が ヒシヒシち伝わって来る。水ん調合かるコネカタ ま  
じズブン素人じゃねえ。それとん熱心さがカセイシヨルカ  
。やる気んある女ん執念が見事 花も咲かせたごたる。

行儀ゆう並べた米ん粉ダンゴ 『さあそりゅうどけーす  
るか』 『どげーち』『こんままじゃ 誰でんするダンゴ  
じゃのう』『そうで 違うん』『こんままじゃ色気がねえ  
のう』『……』『見たままじゃろう 何か工夫がほしゅ  
うねえかのう』 『ちっと形ちゅう変えちゃどげえ』『そ  
うじゃ そげな遊び心が 美味しゅう食い物ぬ作るもんじ  
ゃ』『わかった ほんなこげなんなどげー』

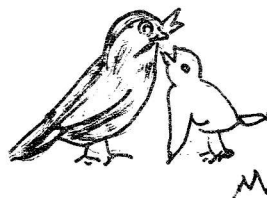
若い嫁ごんした手先ん仕事 だんごを摘みあぐると形ちゅ三角にしち 上をちょこっとツマング。『つまんだソキー 3つんエクボが出来た』 『ありゃー面白カッコウじゃのう こりゃ面白い』 五助さんも内心嬉しい顔になった。昔かる 『鼻つまみだんご』ち 言いよつたが 咄嗟に出来たそん 思い付きがドンコンネエ 嬉しい気持ちになった。

『そげなんのジョウジャ面白うねえき いろいろん形ちゅ 並べち見ちゃどげ一えか』 『そうな ふんなこげなんはど げ一』 こんだ細長えの 平べったいのん 四角いの 数が増ゆると結構形も 複雑になっちくる。若い頭にゃそげなんが 浮かび上がっちゃうるんじゃろう。

準備ゃ出来たごたるのう 『湯をタギラセチ ユズルカノウ』 ぐらぐら沸いた鍋に潜らすると 『浮いたら煮えたんど』 ゆつくりスクイあげち そんままショウケじ冷やす。水洗いはせんのだ なしやち 『きな粉がつかんじゃ 味ん引き立てがね一じゃろう』 『味ん引き立て』

『そうじゃ 何でん味ん引き立てじ こりゃあうめ一』 になる。『ふんな今日 ゆう出来たな 五助さんがん引き立てん おかげじゃなあ』 『や…うん いんにゃ お前ん味ん引き立てんお影じゃのう』 『そげんこた一ねえがえ』 『あるど じゃけんど 味も大事じゅやが 心がこめられちよるこれが『いい味になるんじゃろうの』

ひげ面ん五助さんぬマジマジち見る 笑顔はなんとん言えん美しい顔ん 若嫁ごじゃつた。

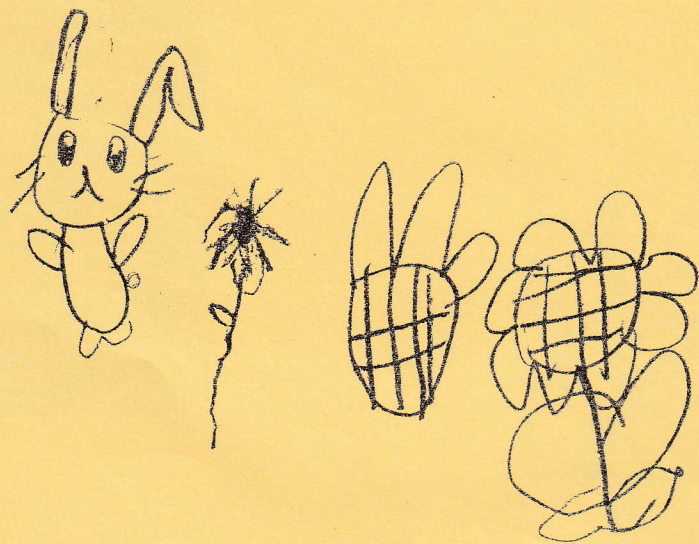






方言調査中に寄せられた資料から 伝承、民話の他に故郷の発展に寄与したり 国の有益な力を発揮した 故郷の先人を『玉手箱』から出して 紹介するこの欄には 今回5人の横顔と業績を掲載しました。今までに少しは紹介されているが 方言集として掲載したのは 初の試みです。読むと又異なった味わいがあるかも知れません。

知られない功績 人となり それらを知っていただくことも 意義があると思います。もちろん故人だけです。



お  
よ  
か



## 郷土の玉手箱

一万田義興 文久3年〈1863〉⇒昭和6年〈1931〉  
今畑に生まるる。諏訪村ん当時ん収入役 代々  
庄屋格ん家柄じったち言う。が経済的にゃ苦しかった 父ん  
権十郎ん在になっちそんほとんどん 財をのうならけえた。  
田吹宗俊、阿部淡斎、なんかに 漢学う学んだ。

明治13年〈1880〉に 今畑ん学校教員になり 翌年ん  
昭和14年〈1881〉に 大田村ん役所ん書記になっち  
勤務。その後 戸長になった。

大田村は 明治に上詰村、やら辻原村やらと合併しち 諏訪  
村になり さらに合併しち 野津原村になるが 一万田は  
こん 諏訪村ん収入役になった。

また 学務委員や土地整理委員 なんかも務めた。その後ん  
日銀総裁、大蔵大臣なんかを 連続務めた 一万田尚登は  
3男。

佐藤利明 大正14年〈1925〉⇒昭和55年〈1980〉  
野津原町に生まれる。医者、自然研究家、旧大分  
中学かる東京慈恵会医大に入学したが 哲学に没入して中退  
した。しかし再度の挑戦は久留米医学部で ここを卒業の後  
九州大学医学部 付属病院で精神科を研修した。昭和34年  
父君の経営する 佐藤精神科病院で副院長 35年には院長  
となつた。

『正常人における細かいふるえの研究…特にそん周波数分布  
について』じ 医学博士ん学位をもろうた。精神科医のかた  
わら 道元の教義に影響を受けち 精神科医ん立場かる教育

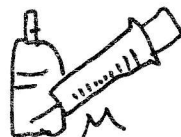
を考えようと医学の会』を 創設。会長としち会員の教師と  
ともに 県下の漁村、や農山村の 学童ん調査もしたり 九  
重ん動植物ん調査を する為に研究所も設置。『九重ん花』  
九重んすみれ』 なんかん出版。ネパールやアラスカ なん  
かにも学術調査にも行っちょる。

本格的な精神科医に入る前にゃ 若い人たちとん交流ん機会  
が多ゅうじ 音楽コンサート『みどり会』を 定期的に開き  
音楽が精神科医に 果たす役割ん大きな鍵も 発見したごたる。  
郷土にある岡倉神楽んリズム これを取り入れた治療ん  
方法はち 変わった発想もかなり 研鑽しちよつたよう。

勇壮な神楽拍子が里人ん心ん 悩みや精神的苦痛の浄化に  
なるのではと熱心に取り組み 結果が待たれてもおった 道  
半ばで帰らぬ人となった のは惜しまるる。親子二代で築く  
精神科医学は 現在社会ではさらに期待もされる そげな思  
いが彼の熱心さん影に残っちょる。

何年か過ごした巡り合わせん中じ 優しい情愛も兼ね備えち  
よつたき 若い将来が囑望された医師。医は仁術ち言うが自  
分が 先に行っちゃ何にもならん 宿命でんあったんか。妹  
思いんハンサムが ちょこっと窓越し覗いち 手招きする時  
ゃ内緒じ ゆう生菓子をくれたもんじゃつた。

こん頃ん生菓子ち言うと 憧れん菓子でんあった。百姓ん  
お母さんが 子供に食わせて一ぱっかりに 親父んおらん留  
守に米を すくい出えち物物交換 したもんじゃつたが。古  
いい時代ん名残りじゃろうか。貧乏してん心が豊かじゃつ  
たごたる 昭和35年頃のこと。



波多野乾一……明治23年(1890)野津原に生まれ ジャ  
ナリスト。中国問題専門家。大正元年(191  
2)東亜同文書院政治科卒業学 あと大阪朝日新聞に入っち  
北京留学生になった。その後ん東京日日新聞の論説課員。そ  
しちこんだ 大阪毎日新聞北京特派員。北京新聞主幹なんかし  
ち 大正13年に時事新報ん北京特派員 続いち昭和3年にゃ  
論説委員。

所属が変わってん一貫しち 中国とん深い関係を持つち 我  
が国ん対中国政策に関与しよった。昭和7年にゃ外務省ん情報  
部や 興亜院 大東亜省ん 各囑託にもなった。

世界日報ん論説委員 産業経済新聞論説委員にもなっち ア  
ジア政経学会や 東方文化学会んそれぞれん 理事もつとめた  
。中国関係ん著書が多ゆうじ 『支那の政党』『現在支那』  
『現在支那の政治と人物』『毛沢東と中国の紅星』『中国国民  
党通史』 なんかがそん代表。

野津原ん権現にある古い井路 吉熊谷下かる引いちよるが  
そん発掘した記録がねえし 不明じ昔んしの秘策が忍ばるる。  
長さが400メートルぐれ。そん殆どがヌキじ所どころい 窓が  
ある。こん窓あ明かり取りやら 掘る途中じそん土うで一た  
穴でんあるごたる。

囚人ぬ使うち掘ったんじゃなからうか 誠に巧妙な技法でん  
あるぬ見りゃ そげな連想に頭が回るんも 不思議じゃあるめ  
え。江戸期じゃつたんか 権現がまだ華やかかなりし頃 そげな  
工事によっち 水が来たこちいなる。イノチキン高度さも伺え  
るごたる。



佐藤義詮……明治39年（1906）上詰生まれ。教育家  
じ別府大学創立者。明治41年に小野由之蒸  
が開いた『豊州女学校』を 昭和11年に継承しち第2次  
大戦中ん苦勞ん後 戦後いち早う『別府女学院』ぬ別府  
鶴見園跡地に開いた。

じゃけんど進駐軍に接収されち 仕方う北石垣ん華北交  
通ん 保養所跡地に移した。学研肌じ 文化人の佐藤は  
『心理は我らを自由にする』ち言う 建学ん理念ぬ高く掲  
げち 昭和25年に別府女子大学を 同じく29年にゃ  
男女共学ん『別府大学』に改めた。

また『短期大学』も併設しち 昭和30年代後半かる40  
年代ん 大学激動期も財政危機も乗り越えち 学園紛争も  
秩序を保った。また広く国際文化交流にも 目を向けち  
ハワイ大学やら中国四川外語学院なんかと 姉妹提携も結  
んだ。当時ん学校教育に傾注しちよつた。

一方学術調査団を中国、古代ギリシャ、なんかに派遣しち  
国際文化シンポジウムも 開催するなど学術研究に成果  
もあげた。大学開校20周年にゃ ブルガリア合唱団の  
公演会を開催なんかしち 県民の文化ん向上に寄与もした  
。明治末期 大分じ女子教育に掲げた灯は 今日別府の地  
じ100年余り 学校法人佐藤学園に実った。

別府大学を中心に 短期大学部 付属高校 付属幼稚園  
付属看護学校ん5つ 約4000人を擁する 総合学園に  
育てあげた業績は大きい。大分合同文化賞 文部大臣賞  
褒章 勲3等旭日章なども受賞しちよる。※ 平成10年  
に記録から取材で現況とは相違もあります。



工藤三助……『不可能を可能にした』ち言う 男ち言うてん  
違わんぐれー 能力、行動力ある人となりん  
偉人であつた。百姓ん水が少ねえ所い 何としちでん水う引  
くこつー 熱心に考え執念な見事に それも確実に為し遂げ  
又は基盤づくりに精進した。言えば水ん神様んごたる しでん  
あつた。

元禄元年《1688》かる 寛暦8年《1758》まじん  
間に水路に関わる仕事は 今も恩恵を受けた水田じゃ 実りが  
約束され百姓ん心が豊かになる おおけな役割も果たした。野  
津原ん場合は『世利川井路』が 脈々と流れる水う感謝する。  
そん途中にゃ当時ん工事としちゃ 難工事じゃつた『浮動岩』  
がある。

行きづまった工事に夢枕の 浮動明王から知恵を授かり そ  
ん手法がそん頑丈な岩をくり抜いた 今も語り草に残ちよる  
。それでん簡単に來るんでんねえ 長い距離にゃヌキが多ゅう  
じ おまけに他国領地を通る為ん 測量やら許可なんかにも  
どんぐれー苦労したもんか。

資金面なんかも予想以上ん苦労もあっち 奥さんを迎えるに  
ゃ水源のある 領地かるち言う心くばりが こげな成果にも結  
びつくこちーなつた。釣りさお測量、天秤測量 時にゃ行商に  
なつたりん 今考えちみりゃふんと タマガルゴタル離れ業ん  
才長けた持ち主でんあつた。

幕府領、岡領、そりー肥後領を 飛び回つた健脚と周りん人  
たちん 真心ん支援も進むにつれち 大きゅうなつたごたる。  
熊本ん藩庁普請奉行役所じゃ なかなか許可がおれんじゃつた  
時お 玄関じじつと30日も待ちち ヒョイトスリヤ相手も  
根負けしたんかエート下りたち言う。

加藤清正が肥後領主になっちは 久住。野津原、鶴崎  
佐賀関も肥後領地になったき 三助ん井路開発ん記念碑も  
建てられちそんな大けな石が 近所ん『よこどう』かる 安政  
6年(1859)に 百姓なんか为中心に引っぱち来た。  
そんな大けな石ん碑にゃ『工藤三助ん功績』が 書いちあるが  
のち 嘉永6年(1853)に 長崎に行く途中ん 勝海舟  
と坂本竜馬が 1864年にこくう通ち こん碑う見たこ  
つう書いちやる。

長湯ダムから流れちくる 世利川井路は何も話さんけど  
そんな昔 苦勞しち作った井路んおかげじ 百姓んイノチキゅ  
豊かにし 米ん自給にも役立つ政策ん 一つにもなったごた  
るじゃろう。それも工学機械もねー 260年ぐれー昔ん話  
じゃき どんぐれー苦勞が多かったかが解る。

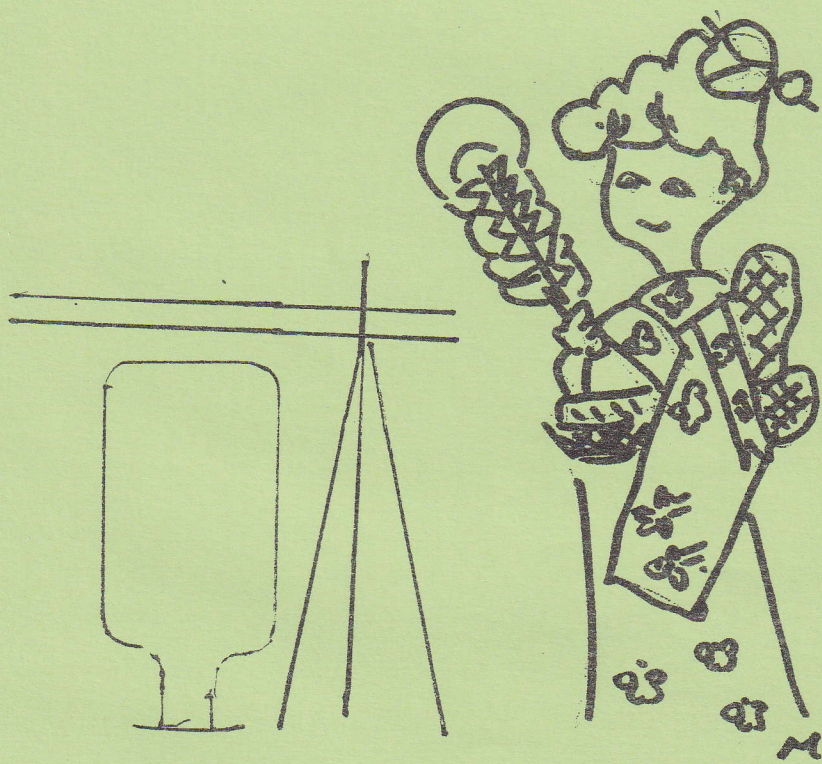
物好き、お人よし、えら振り、中にゃ錢儲けど、なんかも  
言われたち言う時代ん 浅はかん人間の惑わされん 弱え心  
りなんか負けんじ 自分の信念ぬ通した器量は 真似が出来  
んのじゃあるめーか。そしち家族もそれにゆう ちーち影か  
る支えた高貴ん気持ち それが今日う築いたんじゃろう。

昭和ん末に工藤廉助翁に お会いした際に話の中じ 三助  
ん人となりも伺えち 感じ入る事ん多いに肝胆、こん人にし  
ちこす出来た偉業ち しみじみ思うた事じゃつた。人間の生  
きちよる間んやるべき宿命を やるかヤランカそりゃ自由じ  
ゃろうが やるべき事う欲と天秤に 掛くるしが多いな悲し  
い事じゃが。これも人それぞれん思いがあるき。

乱文書いたお詫び ご冥福ご祈念申してご容赦を 合掌。



# ふるさとの味

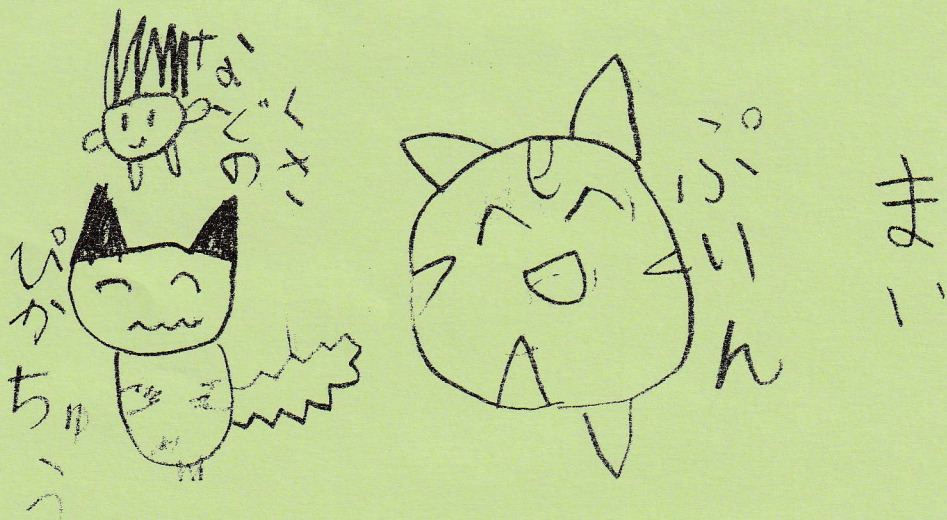




身近な材料を使って咄嗟に出来る それが旬の味であれば  
 尚更 健康にも効果的 日本人の体質と季節に素直に 合わ  
 せた食文化は長い歴史を 混ぜ合わせながら幾百年も 続い  
 て来たものである。そこには人の愛情も込められて 相手を  
 大切にするもてなしは 真の心のこもった接遇でもある。

馬鹿の三杯汁とか 腹八分、腹も身の内とか 食にまつわ  
 る 言葉方言も多いもの。麦飯味噌でえ キラスぶげん……

- ※ 愛情の卵すいもん
- キューリン酢のもん
- 粉ねり粉あえ
- ダゴ餅
- ツキアゲ





『愛情かけた卵吸い物』

田舎んアタダンお客にアワテマクッチ 隣んバアサンがすぐ口っ出し 手を貸すのん世話んごたるが ムゲネーキである。『牛見に来たごたる』ち 感が働くとツージモドッチ『早っ顔洗うち 卵吸い物んぬ作りなァ』 こん前もそげん事があつたき 娘もこんだ慌てんじやつた。

『またえ ふんと』 口じゃそげ一言うてん 心ん中じゃ嬉しいもんじゃ。年頃いなच्च嫁ご見ん何回かのーじ ドゲェスンナ。牛見た一品のいい『隠し言葉』じ 百姓しんかたん娘っ見にくるんが 『ちょいと牛っ見せなァ』ち など賭けでんあつた。

娘が慌てち炊いた 手っとり早え吸い物が香りゆうでけたき 隣んばあさんも落てち一た。『まあ こっち寄らんな』『じゃまじゃねえかなー』 『もうここんしも帰るわな』『ほんなちょいと待たせちもらおうか』 表座に腰かけち家ん中を見回しよる。

『まあ 上がりゃいいに』『気の毒いなァ 忙しい時い』そんなま上がり座った。いい頃っ見計ろうち娘が 茶を運んじ出ち来た。『ありゃーこげん娘がおつたんな』 予定通りん話が進むと 『ちょいと冷やでん 持っちな』『あれでんいいん』 打ち合わせたのがもう筒抜け じゃがそこが愛敬ち言うもん。

見たままん愛らしい娘が 冷や酒じゃが卵吸いもんと 盆に乗せち持っちな。『ありゃー手を取らせち悪いなァ』吸いもんが熱っもねえ飲み頃にひえた 『はいおあがり』 勧められるままに杯っ持ち上げ 吸い物っ引き寄せた。娘ん

顔っ横目じ見ながら 『もうイクチなったんな』 娘はちっ  
と顔が赤っになったが 思い切っち『17です』ち はっきり  
返事ゅした』 ばあさんがスカサソゴツ 『はい吸い物でん  
食べて もう帰っちくるわな』 ここんしゃ知らんのじゃけ  
んど 芝居が旨いもんじゃき 乗せられたごたる。

『悪いな ぁ ふんなヨバリュウか』 一口すすった味が又  
なんとん風味がいい。『ありゃー こりゃー旨えな ぁ』 娘  
もほっとチット膨れはじめた胸うなでおりーた。日頃かる  
いつ誰が来てんすぐ出せるる 卵吸い物の味ゃ煎子とシイタ  
ケじ取った『だし』が 田舎料理ん一番の味。

そりー卵いれち煮立てち浮いた頃 下ろすと出来あがり。  
娘がこん頃 ぁゆう炊くき もう慣れた手つきが上手になった  
。他のもんが入っちょらんき それが素朴じ上品な味に 仕  
立て上がるんじゃろう。下手に小細工したもんよりゃ どん  
くれ心がこもっちゃうか。

『こりゃーご馳走になっち悪いな ぁ』 『そげん心配いらん  
で まあゆっくりすりゃいい事』 『ここんしも忙しいんじ  
やろう また出直しちくるわな』 『そうな 待っちょつち悪  
かったな ぁ』 娘は答えん出らん お接待じゃつたがそこは  
ちゃんと 採点ぬしち帰ったんじゃろう。

ばあさんが 牛見ん帰った後ちょこっと味見しちみた。味  
がよかったんじゃろう いったき黙っちょたが 『お前ゃ上  
手になったな ぁ』 『ふんとえ』 二人は顔見合わせち ニッ  
コリ。バアサン自分の孫んごつ嬉しそう。いつかこん娘もよ  
そん嫁ごに歩くが 寂しいような嬉しいような……。加葉ん  
彩りは好みじな。



## 『キュウリン酢もん』

夏ん暑いサカリニャ あっさりしたもんがいい。じゃけんど  
ジヨウになるもんも 気をつけちょらにゃ『立ちくらみ』 ど  
ま作りたつりゃオオゴチなる。じゃき昔んしゃ知恵う働かしち  
ゆう 考えちよるん中に『キュウリン酢もん』がある ちょこ  
っと菜園に行ちナリダチぬ もぎ取るとサブサブ洗うち マ  
ナイトん上ん音。

カタカタ、チョンチョン、どこん家でん決まったごつ 申し  
合わせたごつ軽い リズムがそこらじゅうに流るる。手慣れた  
もんじゃき 親父がヒモジソウに 待つちよつてん文句言う  
そげん暇ねえごつ早え。ヤウチがぐるっと丸う 座った飯台に  
箸が無造作に配らるる。

キュウリにばらっと塩うまぶし チョキチョキ揉むとギュー  
と ひと絞りすりゃ もう出来あがり。煎りこを粉にしたんぬ  
振りかけ ゴマも仲間入り。そしち味噌が入ったら あん独特  
ん香りがふわっち あたりゅう漂うち来る。『もう出来たんか  
』 言葉にゃ出さんけんど 女ごしん手裁きゃ実に 妙なるも  
んがある。

味噌にゃ麴が小麦が大豆が入ちよる。煎りこにゃ海ん栄養  
もツレノーチヨル。酢が程ゆう味ウ絞めち 夏んお菜にゃ最高  
んご馳走になる。『今日んヤター歯ざわりがいいのう』 めっ  
て言わん親父が褒めた。それもごく自然に出る 愛情ん表現か  
ん知れん。『ふんとえ』 言われたしもどんくれ嬉しいか。

大盛りち思うちよつたに アッチ思ちなかめえ キュウリン  
山が減ちしもうた。『今日もウマカッタンカ』 嬉しさがこ  
みあぐる刹那。ここにゃ家族ん平和が滲み出ちよる。

酢のもんチュウテン 仲間え入ったもんじ味が 又オットロ  
シユウ変わるもんじゃ。ちょこっと シソ 入れたらどげ一な  
『ありゃーこん香りゃ又いいもんじゃのう』 殺菌作用もある  
シソ 加葉にゃかがせんもの一つでんある。ミョウガはどげ  
えな これも独特ん味に誘うちくるる。

ただ好き嫌いがあるき 用心するか別ち皿に乗せち 脇い置  
くもうまい手かん知れん。味噌た一味ん元とん言うき 味噌料  
理は重宝がらるるが 野菜を生かすところからでん 旨い知恵  
ん出番にもなる。キュウリは新しいにコシタコターネエガ 歯  
ざわりが勝負じゃき ちょこっと水にツケチャリヤ 喜かうじ  
シヤント腰う 伸ばしち元気にもなる。

味噌ん嫌いなしゃ カボス酢をかけち あっさりキュウリも  
いいもん。ワカメをサット湯に潜らすると マッサオ色になる  
きツケアワセニ ニンジンぬ使うと 彩りがマコチュウナル。  
日本料理ゃ見た目に美しいんも心情。そすりゃ色合わせなんか  
も 食感ぬ湧かせちくれそう。

一夜漬けにしちアツサリ朝食ぶるんな 目覚ましいいいんじゃ  
ねえ。酢は健康ん為になるち言うき シヤント使うちよくれ。  
ユズ、カボス、ダイダイ どりゅう使うてん酢にゃ変わりゃね  
えけんど それぞれん味があるもんじゃき そいた気をつけた  
がいいかん知れん。

キュウリも夏が舞台じゃが 秋口になってんブラサガッチ  
もう葉は枯れよんに 頑張るぬ見ると 撒く時にチットずらし  
ち撒くと なりだすんがだんだんになるき 使い勝手もいいん  
じゃあるめえか。次々使われち秋口な 特別歯ざわりもゆうな  
るもんじゃ。よそんしにヤッテン喜ばるるで。入れ歯んジイサ  
ン旨そうに食うぬ見りゃ いいもんじゃなえ。



## 『粉ねり、粉あえ』

所りよっち呼び方も味も違うな。世の習わしじあり人間の心がカタッチョルキ 仕方ねえがそれだけ 真心が入ってんおる食べ物でんある。季節ん材料を使う『手っ取りばええおさい』でんある。おさい…ゆうなりゃオカズ副食じある。夏ならニガウリ ナスビが 適役。好みじ何でん使われる。

始めんくちい材料をいためる…油を使うと付加価値もつくし 好みじ味も引き立つ。半煮えん頃に小麦粉をゆるう 水じといたもんを入れると 後は適当な柔らかさに煮上がるとできあがり。練った小麦粉が野菜にからむ その食感が食欲もそそちくるる。

暑さに汗うふきふき帰った おふくろがもうナイショじコトコトやりよる。皆んな早く昼飯う食うち 昼寝でんしてえ心境じゃが 女ごしゃ食う事ん世話が待ちよる。そりいあまゆりゃ悪いな解ちよるが やっぱ『おかちゃんな上手しゃき』ち 心にもねえ嘘も方便じ出る。

『こねりか』 親父が不足じ言うんじゃねえ 『すまんのう』ち言えん男ん立場があるんじゃろう。へんに威張ったところじ男なんか 知れたもんち女ごしゃ 思いよるじゃろうが。同じ家ん中じイノチキしよりゃ いい事んじょうわねえし 助け合うんがあたりまえ。

『ばっかり食いじ悪いな。』『いいど お前もひどかったにのや』 優しい言葉がでると家の中 なんとのお明るうなっち 炊きだちん『こねり』が 格別んあじになっち茶碗の音が リズムう奏でちくれた。地区によっちゃ『こあえ』とん言うが 同じようなオサイでんある。



古い領地関係じ呼び方が違うのん 自負心とプライドがあるんもゆう解る。そげな気持ちも大事な事である。『どげえなニガウリが出来たき 食べんな』 まえざれに無造作に包んじ 持ち来る近所ん仲良し。何はのうでん心が明るうじ 豊かじゃき出来た物んが行ったり来たりん人生。

『つつろく人生』ち言う。俵を編むとき小縄を巻きつけた道具んこと。筒袖んごたる着物着た格好かる こげな風に呼ぶごたるが 行き来するなんか心が通う 何よりん情愛ん証。自分たちばかりが食うより 皆んなじ食べる事じ 喜びも美味しさも分かち合える。

『いつも悪いな』『アゲンコトジョウ』 笑顔が交差すりゃ 『あんた 味噌漬好きち言よったな 食ぶるな』 『食ぶる 食ぶるで』 勢いせまった弾む声。よっぽず好きなんぬ知っちょるき 何かお返しして一ぱっかりに。相手がゆうすれゃそり一答えて一人情。

『ちゃー何か貰いきたごたるな』『ちゃーいいこと』 二人ん顔は嬉しさに娘さかりん心境。『今日はコアエう作ろう 義母さんが好きじゃき』『ふんとえ ほんなまた持ちくるわな おばさんにゃ ゆうしちもろうちよるんで』 嫁に来た頃にゃゆう泣いち 慰められたち聞いた事もあった。

『ほーな あんたでんそげんことあったん』 知ってはいたが知らぬふりも嘘は方便。コアエン好きな義母ん 嬉しそうな顔じヤウチが賑やこうなりそう。家庭が明るかりゃ健康な証拠。コアエも一役買う百姓ん夏である。『これじ一食オサイガ出来た』。季節が春かる夏に移り変わる中じ自然が作り出す野菜にゃ 人間に欠かせられん命ん 源があるぬ感謝せにゃとん。

## 『ダゴ餅』

餅お百姓にとっちゃ最高ん食べ物でんあった。昔かる餅お神様え供える何よりん 印でんあったかる それがゆう解るき百姓もドゲー出来が悪い時でん 『もち米』だきゃ大事いしち ゆう出来た年どま『みやげ』にでん したもんじゃつた。無理もねえ銭ん回りが 厳しい時代でんあったかる。

今年もなんとか『もち米』が 出来たきい決まちこんしゃ 『ダゴ餅』っ作ち神様 仏さめ一供えたもんじゃつた。もち米っスルトうむしち これも出来たばっかりん 新小豆ん餡ぬつけち出来あがり。齒のいしにゃ不満もあろうが骨おち加勢する年寄りしにゃ 口当たりもいいし ダイイチ齒ざわりがいい。

そりい何ちゅうてん 新もち米ん香りがなんとん言えん。小豆ん濃い紫紅色が 白いダンゴっ上手に包みくうじ 誠ち仕上がりがいい。年寄りが『今年もふがゆう出来たのっ』 皺がもう出来ばんね一ごつ 広がちよる顔っ撫でち 苦勞ん多い百姓じゃが 地主がケーチクルル田があるき 『早っ神様、仏様いあげたな』 いらん世話じゃけんど ばばさんがニコニコしながら 奥かる言うと『あーい』 孫がつうじ来ちオテショに乗せた 『ダゴ餅』っ運っじ行く。

貧乏しちよつてん 今年も『ダゴ餅』っ上げらるる しあわせん一時でんある。『隣んしにゃアゲタナ』『ウツトウガ持ち行ったき』 皆んなん笑顔が声が広がる 家ん中にゃ長え夏ん苦勞がえ一と 報いられたごたる東ん間ん 楽しい時が流れちよる。

コゲナ時間があるき 皆んながサカシイき ダゴ餅も作れ

たきもう何も言うこた一ねえ。『茶をせーたで』 あっちこ  
ちかかる集まる。並べられたお盆に 見事に並ろうだダゴ餅  
手を出すんが惜しいごたる 喜びん風が爽やかに 流れち  
ゆくごたる。『ひとつ食うおうか』

シケもあんまりなかった今年ん作 皆んながそれなりん事  
うしち 秋が迎えられちそん始めん 『ダゴ餅』がえーと今  
こき一出来た。そん感激ゃ嬉しさは じいさんも ばあさん  
も トッタンも オカチャンも そしち子供たちも。何んか  
涙が流るるごたる瞬間でんある。

病気もしち苦も見た日 喧嘩しち口も タタカンゴツナッ  
タ事も。飯も食わんち腹をたてた子供 銭がね一きあれも買  
えんじゃつた頃。

じゃけんど何とかサカシュウじ ここまじ来た今年ん秋ん  
『ダゴ餅』づくり。人間の世界にゃどうにんならん 仕方ん  
ねえ事も日も時もある。じゃけんど反対に 飛びあがっち喜  
ぶ事じゃつちてある。それが人生でんあり じいさんばあさ  
んな そりゅう乗り越え歯をくいしばっち来た。

『お前どうも出来る』『じゃなゝ』 言葉すくのう返事う  
した親父 側じ頷くオカチャン。子供たちも顔見合わせち  
『まかせちよきなゝ』 末たのもしゅう心じ返事したじゃろ  
う。じゃきヤウチが元気で まゝそりゅう『由』にしちよき  
ゃ 世の中何とかなるもんじゃ。

出来立てんぬき一『ダゴ餅』 冷とうなったダゴ餅も 又  
歯ざわりがゆうじ うめ一もんじ好きなしもある。  
無事こん秋が終わるごつ 願いながらオテショが  
心地いい 音たてち口が忙しゅ動きよる。





## 『ツキアゲ つきあげ』

小麦粉をベタツト付けち揚ぐるぬ ツキアゲ つきあげち言う。キジンソウンつきあげゃ 歯ざわりがゆうじ サクサクなんと言えん響きがもういい。山芋ん葉っぱ使う サンショん葉 これもいいな。チョコット香りが何とんいい。しいたけ ごぼう にんじん 土がちーちよつたもな。そこかる栄養も伝わちくる。

『フローが長うなちよつたき ツキアギ しちゃどげえな』『ちょこっと変わちよつちいいかん』 いつもん使いかたじのうじ 角度う変えたオカズにゃ 食感も食欲もましちくる。『ニンジンの葉なら 孫たちも食うじゃろう』きばばさんが気を利かせち 揚げたところ解らんまま食う。

『今な なんじゃつたかえ』『あてちみよ』『パセリ』ミンナガ顔見合わせちクスクス 笑いで一たき こりゃ違うち思うたごたる。『解らんじゃつたかえ』『なんかえ言うちみよ』『言わんで』 いったき考えよつたが どうやら解つたごたる。『ニンジン』

ソレデン解ちしまうと 自分も嫌いじゃなかつたち 心が揺れ動いた。『なーんか ニンジンでん食べるる』 自信もちーたんか次にゃ 箸がそっちにも行くぬ見ると ばばさんも嬉しいごたる。『ありゃあ あんた好きいなつた』『そうで ばばさんの作ったツキアゲゃウメーモン』。

自然材料食品ぬ使う田舎料理にゃ 見かけゃ悪いかん知れんが 昔かるん生活ん知恵かる 湧き出ち長年食べた体験かる使うもん。それだけに親しみも安心もあち 嬉しい気持ちにさせらるる。

『アラレン固うなったのんツキアギしたき』 茶のみ同志が紙袋いれち持ち来た。『へえ珍しいなあ、どう味見うしゅうか』 固うなると味はまこちいいが 入れ歯どもトキンマに折ってしまう。煮てんなかなか柔らしゅうならんが ツキアゲならグアユ出来た。

『こんだ何う揚げたんな』 『ミョウガンコを揚げちみた』  
『こりゃ又いんじゃねえ 香りが残ちよるで ミョウガンヤター 生でん 煮てん 揚げてん いいもんじゃなあ』  
『そん代わり あんまり食うと耳が遠うなるとん 言うで』  
そりゃまあ困ったコンニャクじゃなあ。

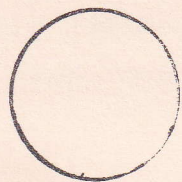
種油が出だした頃にゃゆう ゴボーが人気ゆう揚げちよつたなあ。もともと精進料理ち言う 中国かるん お坊さんが持ち帰った料理じゃろうが いつんなかめ一か大手をフツチ 歩くアルクのん食い物にゃ 絶対いるもんかん知れんな。そんなわり火に気をつけち ヤケハト一せんごつせにゃなえ。

★ 方言説明 ツキアゲ…天ぷら フライ。キジンソウ…ゆきのした。チョコット…ほんのすこし。オカズ…副食、お菜。ジャロウ…でしょうから。ジャツタカエ…なにと思いますか。ソレデン…それでも。ウメーモン…おいしいものです。アラレ…つき餅を賽の目に切って乾かした保存食。トキンマ…急な場合のために。

アラレ…つき餅を賽の目に切って乾燥した保存食。トキンマ…急な場合に役立つ。グアユ…調子よく、上手に。ヤケハト…火で怪我をする、火傷。



ふるさとの史跡





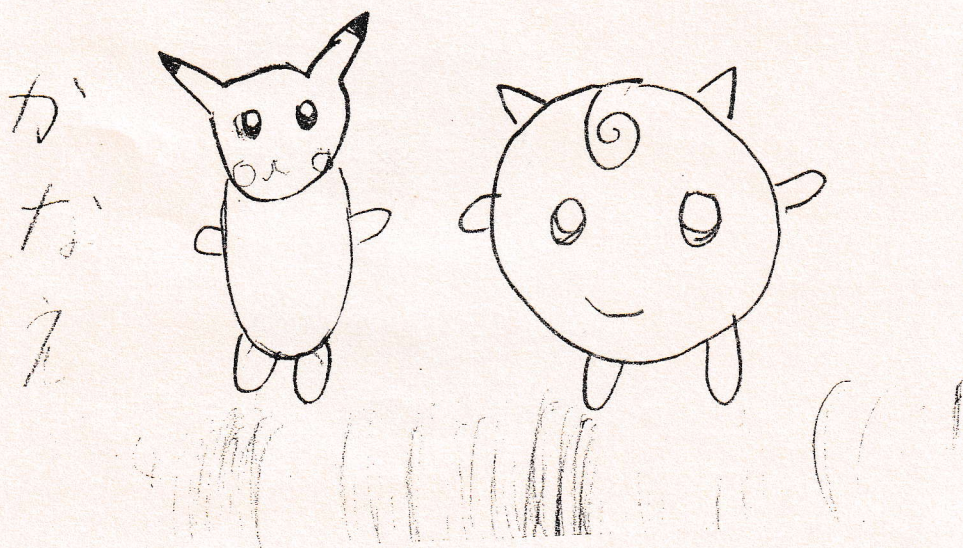
故郷の歴史を尋ねて 思い出を懐かしむ史跡には 昔と  
変わらぬ哀愁が残されている。

自然が季節を忘れさせ 迎えてくれるイヌフグリの花の  
可憐さ。木のおい 草の息吹き 自然はいつも優しく  
何か囁きかけてくれるよう。

見守ってくれるもの 自然に感謝して行く気持ち 自分  
たちはこの自然の 懐に抱かれて 遊び 泣き 怒り 心  
の発達を遂げて来た。

健康でいる今の 幸せ 故郷が 先人が作り出してくれ  
た故郷。城趾に 滝しぶきに せせらぎに 緑の山並みに  
懐かしい 夢とロマンを……そして明日に向かって……

◇◇◇ 愛宕城趾 薪取り 鈴ヶ滝 ◇◇◇



## 『城跡う尋ねち』

ふるざとに愛宕山ち言う山がある。高さが60メートルじ小高え山ん頂きにゃ 800年はず前に城が 作られちよつた。そん城う作る時なかなか難儀したもんじゃき『キク』ちゆう 女性と『ワシ』う埋めち えーと出来たもんじゃきこん城う『鷲が城』とん呼ぶ。

年が感受性お鈍らせちしもうてん コンメー頃い見なれた景色う見ると 胸がドキドキすんなあ ゆう解る。それが又大好きん歴史ん 城跡じゃき尚更んごたる。こん頃い久しぶり里う尋ねた時 愛宕山に登っち見た。町筋かる300メートル そん途中は両側にヌルヌルん田んぼ じわっと広がっちよる。

刈り取った跡ん稲株に 浅え水面が出来ち吹く風い 相づちゅう打つごつ 波紋ぬ広げちよる。チットヌキ一日が続いちよるためか セリが葉をひろげ 可愛いルリイロ色ん『イヌフグリ』が 昼からんさわやかん陽ざし いっぱいに受けち 咲き乱れちよるんが 何とん言えん眺め。

昔ん山道にさしかかった時 知人が指さした竹ん林んあい間に 苔むしたごたる石が見えた。『昔ん道ちゅう登っちみるかなあ』 『そうですね』 ち返すと知人な もう登りよる。冷てえ風が木木うイサブッチ 竹んさや揺れ。『うつりせん風や昔う忍ばるる』 人ん来るのん少くねえ城跡にゃ 侘しさも感じらるる。

100年ぬ越したんじゃろうか 松ん梢に吹く風が『ピューーピュー』ち う~~なり~~りゅうたてち流るる。『そうじゃつたまあこんめー頃 母にちーちゆう松葉かきー来た』ぬ 思いでーた。



近所んしたちとガヤガヤ 話しながら登っち来る時あ 母ん  
草きり籠ん中じゃつた。ハンテンのソデに入った手が 寒いも  
んじゃき赤うコジケチ 身震いするごたる山ん上。それでん  
ちいちきち母が松葉を集むるあいだ ぞうりう上手にへーち  
『マツカサ』を捨うたもんじゃつた。

松葉がササッチ 『アイタ』ち大けな声うだと 心配そう  
に走っち来た母が 血のにじんだ指先う 吸うちくれた。そん  
感触あ親じゃきいか 『わやくするき ミナ』ち 叱られたも  
んじゃつた。のん今はもう遠い 昔ん思いでになっちしもうた。  
振り返りゃ あん頃ん母ん年になっちよる。

草影んフツをヒキムシルと 素早う揉んじそん上に ウッタ  
テチクレタ。そん母ん顔が自分がん事 んように心配しちくる  
る。乳ん匂いがほんのりする 母んそん肌も そん後まものう  
こん 世を去っちしもうた。

じゃけんど故郷にゃ そん母に代わる優しゅうじ そしちこ  
んだは 甘えちくるる母が 時折訪ぬる私う 待つちよつちく  
るる。松葉かきした私ん母と 私ん甘えたそん母と 今じゃ私  
しに甘えち生きる 里ん母とん顔が交差しち 浮かびあがるが  
考えち見りゃ そげな屋んもとに生まれ 育ったんじゃろう。

そしち今ん私ん 幸せがあるんかん知れん。『恋う母の夢や  
静かにマツボクリ』

竹を押し分け石跡う確かめち 登る城跡。『こん石垣が登城  
道ん印で』 ゆう見りゃふんと 自然石やら加工石う積み上げ  
た 急勾配ん石段が山頂添いに 続いちよるんがゆう解る。空  
は抜くるごつ晴れちよつたが 天気が下り坂か ちっと曇っち  
きたごたる。



心ん動揺はずむ気持ち はやる心う押さえち『まゝこれが』  
思わん大けな声うで一た。ソコラサングにあった 竹棒じ草う  
ウッ払い 苔う落とすとマギレンネエ そりゃー昔ん石が鈍い  
色う 見せちくれた。あどけねえごたる石 ナンジュウネンの  
昔ん 夢うソンママ出ちきたような。

竹林う上がるとこんだ 杉林が続いちよる。歴史ん研究しよ  
る知人な 物差しやら拡大鏡やら 7つ道具う引っぱりで一ち  
確かめたり帳面に書いたり 忙しい様相が見ちよると 1つ  
ん絵になるごたる。手を動け一たり目じ 睨みつけちみたり  
物好きなりゃあげーも なるんかちタマガッチシマウ。

そん姿てゑ木木ん あい間かる こぼるるごたる陽に照らし  
出された 輝くごたる横顔が なんとん言えん頼もしゅうもあ  
る。たしか還暦が過ぎたろうの そん横顔は青年のごつ 若若  
しいな こげな好きな物い熱中でき 感動を覚ゆるきじゃろう  
。人間の感動は動物ん世界じゃ ほけねえとん言うき。

『城跡にゃまゝ石垣が残ちよるで』 ち言うのう聞くと  
胸騒ぎと期待が ねえ訳でんねえが 一大発見のごたる今ん  
感動が息を止めてしもうちよつた。ちぎれ雲が流れち 草むら  
ん花は人待ち顔に そっと覗いちよる。『訪れる人も絶えしか  
春の花』。

やんがち山頂にたどり着くと 冬枯れん雑草がもの悲しゅう  
風に 揺れちよるのが愛おしくも 自然の厳しさも切ない。今  
じゃ片隅に墓地公園があっち そっとふるさとん町並みう 見  
おろしちよる。野面積みん石垣う目のあたりした時 夢と感動  
が一つになっち 私ん胸に襲いかかるよう。と そん時じゃつ  
た 突然名も知らんごたる鳥が 空を裂くごたる羽音じ 感情  
が一遍に目ざめちしもうた。

植田莊時代ん大友500年あまり あれやらこれやらん人が  
こん地かる あげんこつ、こげんもんち思い 見下ろしたんじ  
ゃろう。『ふるさと野津原』ん町並みゃ 城跡おなんも語つち  
ゃくれんけど 数多い夢とロマンな 繰り返されちよつたこ  
とじゃろう。

そげな移り変わりん中じ 町並みもちっとずつ広がり 人ん  
行き来も多ゅうなった。人里はさらに東に西に そしち南に北  
に輪をひろげち 時代も移り変わっち行ったじゃろう。古い松  
林ん梢に鳴る風も 殴り付くる横雨も そげな歴史ん繰り返し  
に 具合ゆうツキオーチ来たんじゃろう。

そん昔ん府内城ん華やかなりし頃は そん府内ん小京都ち言  
われよつた。栄えた頃はどけな人たちが どけなイノチキユウ  
しよつたんか 鏡に写し取れたら面白うかろうが。

そしち参勤交代ん行列が のろし台んツツ音合図に1000  
人ぐれーが 供揃えしち鶴崎に向かうち言う。九州連山に抱  
かれた みどりん森、そしち七瀬川んせせらぎ。がふんと帯う  
引いたごたる流れじ ふるさと野津原う包んじ 流れよるなん  
か どげーな いいもんじゃろう。

幾百年も続いち先人が築いた 里造りお次々受け継がれち  
あれやらこれやらん 移り変わりに耐え 忍んじ流れう止むる  
ことう 今日もあしたもそしちアサツテ。ふるさとんしが心  
う力を集めち 自然ぬ大事にすりゃ 又いつかこげな素晴らしい  
城が 出来るかん知れんち 空想もしち見る。

鮮やかな彩りはねーにしてん 内に秘めた『ふるさとう愛す  
る気持ち』ゃ いつん日かきつと花を咲かせ 実を結んじくる  
るじゃろう。『そつと咲く里の香りや沈丁花』。

そん昔ん城跡に立つち じっと見つめちよると ダマシ声う  
かけられた。『どげーしたんな』 ふんとタイムカプセルう  
行ったり来たりするごたる 気持ちじアトムクと 知人が変わ  
った石う拾うちよつた。そりゃー古いもんだー思わんごたるが  
折角拾うち得意顔ん真剣じゃに そりゃ言えんじゃつた。

『まゝ』 ふんとタマガッタゴタル顔じ 受け取ると冷てゑ  
石かる 知人の手の温もりが 伝わちくるごたる。

ふんとは期待しちよつたんじゃけんど そげな遺物お見つか  
らんじゃつたが そげな中じ心い囁きかけちくるる 夢とロマ  
ンの人たちん言葉が 耳に入ちちくるごたる そげな気がしち  
目をツブシタ。ソコニャー風の時折鳴る 木木ん揺れ音が。気  
持ちゆう耳う楽しませちもくれた。

さやゆれに小鳥んさえずりう 聞いち『キラビヤカ』ん 武  
将が登ち来る様が 走馬灯んごと浮かんじくる。『城跡う訪  
ねちよかった』ち しみじみと思ひました。ヒョイト見上ぐる  
大空う仰ぐと さっきん鳥じゃろうか 『空ん青さに』 まる  
じ吸い込まれるごつ つうじ行つた。

物好き歴史調査をしちよる 知人の後ろ姿に ヒョイト父を  
思いで一ち 城跡かる帰る道みちじ 西にかたび一た陽に ふ  
りかえると明日も天気か 赤く映えちよる愛宕山。そしち残り  
少ねゑ柔らかゑ陽の中じ イヌフグリん花が そっと閉じちい  
ました。『幾百年の美しき夢 春を待ち』『さまざまにうつり  
変わりて里の春』

今も愛宕山は故郷う見守り 里人ん幸せ願うち  
自然の中じ 古い歴史うそっと抱きしめちよる。  
じゃき尚更哀愁も 親しみも感ずるんかん知れん。





愛宕山にゃこげな物語があっち そん昔ん移り変わる故郷ん人たちん 情愛も伺い知る事も出来る。源平時代ん終わるこりい 兄に追われた弟ん義経が 九州に落ち延びるこち一なった。豊後ん軍団なこげなしを 岡城に迎えちゃるちこち一なったが そん途中じ野津原ん 愛宕城じ休息するこち一なり そん手はずん準備が進んじょつた。

そりゃもう地元んしたちも 『むげねこされ』兄弟じょつちなし そげー『ハダケアワニャナランカ』 中にゃ腹たちまぎり こっちかる戦う仕掛けちゃろうかち まゝそりゃ大事じゃつたらしい。けんどそりゃ考えち見りゃ 犬ん遠ぼえでんあつたんじやろう。

とにかく寝る場所やら 食べ物んやらシチャラニャ すぐ来るこち一なるんじやろう。哀れみと時ん武将ん顔も見て一ち。『お前どうは道う作れ』 メーニチ皆んなが<sup>ち</sup>出ち加勢 時んめにトニカク居る場所が出来た。いつでんいいきな 心配せんでんいいで。

ところがじゃつた 場面な急転しち紀伊ん方に 隠まわれちこっちにゃ来んこちなつた。チャアリャ ウット ドゲシユウカ……そげ一言うたかどうかは知らんが とにかくムゲネーち思うたけんど 運は天に任せちナリユキウ見守る。ソウコウシヨッタところ どうやら北陸方面に行つたごたる。

鷲が城は数奇な運命にあつたけんど 府内ん小京都ん時代にゃ 権現にも武家屋敷がズラリ並ろうじ 広い屋敷跡にゃ今も生活用水に 欠かせんじやつた井戸が 当時名残りう留めちよる。古い石段ぬ袷着た侍が 昇り下りした往時ん状況が ヒョイト目に浮かこうじ来る。



## 『薪もんとり』

愛宕山にゃ松葉、竹ん立ち枯れ、枯れ枝ん落てたのなんかが  
いっぱいあっち 薪もんのイチワぐれーは 時ん間を取っち来る  
。五助さんも時々コイサ炊く 枯れ枝がねーとチョコット ゴソ  
ゴソ山に入っち竹がろう 引っぱり出すとシガキ鎌じ チョチヨ  
ンノチョン。荒縄じしぼりあぐると 横がるいにしち手鼻うカミ  
ナガラ 帰っち来た。

『おらんとむーたら薪もん取り いっちょつたんな』『日ごろ  
ズルシチョルキノ手をクブルワキャイクメー』『そりゃまあそう  
じゃが』『あんまり遅う行きゃアブネーデ』『ショワネー狸坊主  
でん出たら 捕っち帰るきのソントキヤー来いや』『アテナヤセ  
ンジ待つちよくわな』

時時うなるごつ風が吹いち松が 揺れよった朝どま松葉がもう  
オジイゴツ アエチオル。コマダライジそこらそんげかき回しち  
草きり籠にサゼクウジ ひょいとかるうたなよかったが 足も  
ちハツタケが目にかカッタ。こりゃまあコイサン味噌汁ん 具に  
いいわい。世の中ゆうしたもんじゃのや。

こげな低い山でんみんなが 時々行っちゃ枯れ物う拾うもんじ  
ゃき 山あ磨けちよる。そりゅう山主も文句も言わん。文句言う  
ごたりゃソリヤモウ ポソにでんなるじゃろう。世の中ちゃそげ  
したもんじ 持ちつ持たれつん人間同志。そこんしが病氣なつた  
ところがな みんなが心配しち『口見舞い』でん。

えーと元気なつたら『みんなが早うユウナルゴツ』 そん心が  
通じたごたるち みんなかて餅うくばつたんと。なえ気持ち嬉  
しいじゃねえ。薪もんとり行くしがみんなじ 夏山掃除したち言  
うき 行ったり来たりんツツロク人生じゃな。

## 『鈴ヶ滝』

鈴を鳴らすごたる水音かる いつん世にかつけられた滝。  
高さが約30尺、水ん深さが約10余尺、水しぶきがあがり  
りゃ虹もたつ鈴ヶ滝。こかゝ1716年かる35年頃まじ  
太田にあった繁美城ん城主ん 2代佐藤監持入道としち  
ここに法泉寺を開山。こん滝う修験場としち 使用した。

中央滝ん岩にゃ日輪、月輪の彫刻があっち 当時を忍ば  
する。またこん滝にゃコンメー『うなぎ』が おっち滝う  
昇るときゃ水音と うなぎん擦り合う音が マルッキリ鈴  
んごたるき そげな名前にもなったごたる。こんウナギゅ  
食うと腹痛う起こすとん 言われちよるき なんか意味が  
あるんじゃろう。

『神楽ばやしに 更け行く夜は ぬれて見たいよ  
鈴ヶ滝 ハァ 七瀬のせせらぎ サラ サラ  
サラ サラ ホイ ホイ ホイ』

近くにゃ観音堂があっち 本尊は観音像。堂前ん墓地に  
歴代ん 和尚と信徒ん墓。『天下太平民家繁昌』ん 祈願  
のため清浄結斎した『法華経』を 一石一字清書しち 塔  
ん下に埋めた『一石一字塔』がある。

昭和28年当時ん野津原村が 村内8景を募集した時に  
2位に 選ばれち皆なん注目にも なっち続いちよる。そ  
ん頃かる滝ん側まじ行く 段々坂道も出来ち 若い子ども  
が水恋しいぬダシい 柔肌う水に曝すごたる 姿体う見せ  
ちよつた いい時代でんあった。濡れちみて一気持ちも  
ゆう解る故郷ん 史跡ん一つじ夢が仄かに香る ありし日  
ん修験場ん場所でんある。

街道かるちっと離れた場所 流れおつる滝ん水がしぶきになっち 周りん木々を揺さぶり そんな落つる水に打たれちん修行。精神ぬ統一した白衣ん下にゃ 純真無垢な心が生き方ん 新しい発見を目ざしち 般若心経を唱え我を捨てる刹那。若い修行僧がくり返す厳しい 試練の時の流れでんある。

百姓ん娘がじっと見つめち そんな凛々しい男ん姿に思わず自分も 修行出来たらと脳裏じ戸惑う。人が人の真剣さに惚るる尊い思い 四季んうつろいに写し出さるる 現実ん世界はここまじ人の心う虜にもする。桜が散り新緑に変わると 田んぼじゃ次ん仕事がまっちよる。

春ん彼岸に修行場には近所んしたちが お参りするそんな時いヒョイト見かける衣ん僧。無言にゆきすりがいに なるが相手は気がつかんじゃろう。仄かに燃えちよる娘にしちみりゃ 歯痒さが燃え盛る。けんどそりゃーどげもならん 厳しい宿命でんあろう。

『裏木戸あけちよくきな』 義理ん姉さんが気を利かせちこそっと、今夜も滝に行く娘に耳打ちした。『おおきに』願いはたとえ叶わんでん 押さえきれん心ん灯はコイサも鈴ヶ滝に駆り立つる。『ムゲノコサレ』ち思う 義理ん姉も『せめて行けるだけでん』ち 女心ん悲恋に同情もする。

もう夜も更けちしもった頃 裏木戸ん閉むる音がしたぬ親が気がち一たんか ションベンに起けた。やっぱ心配じゃろう親ん情愛が いじらしい娘ん気持ちゅぐっと堪えち 外い出ち一人言っいいよる。『コイサケックシャ月が美しい』コソット帰った娘に『早う寝らにゃ朝起けれんど』『うん』えーと安心したんか親父 『そうじゃショウベンヌ忘れちよった』。美しい月が娘ん人生に試練の夜でんあった。



あれかる3年が過ぎた秋祭り頃 仄かん恋心う燃やした娘もいい相手に 奥入れしち夫婦じ在所に来ちよつた。子供を連れちあん頃う思いで一たんか こそっと滝壺ん側え立ちよつた。ふっと浮かぶ恋の無縁花が 美しい水にサラサラと流れ去ちち行くごたる。『あれじよかった』 自分に言い聞かせち 今ん幸せおうんといいいもんに せにゃとん思うた。

あん時ん悩み苦しんだんが ヒョイトスリャ コゲナ幸運に結びついたんかん知れん。清らかな片思いでん夢もあつたが そりゃそれなりに胸に納めち これかるん人生を張りこいっばい いい人生にせにゃなるめーとん。紅葉ん葉っぱがヒラリ ヒラリ 舞い落ちちゃ流れちいく。

『あんこ 年頃 姉さんかぶり いつか覚えた 馬子歌を  
七瀬のせせらぎ 紅葉がチラチラ ホイホイホイ』

人ん心に優しゅうしちくるるく鈴ヶ滝 でん修行するもん  
にや厳しい 世界でんある。じゃき 心が洗われ人を引きつけち くるるんじゃろう。あん時ん若い僧も 今頃はどこかのお寺じ 笑顔ん説教 人の道を広むる世界ん 世話をしちるんじゃろう。

滝しぶきは今も変わらんじ 流れ落ちちゃ 瀬を作り滞う  
囲うじ 海に向かった長い旅に。『うっとうも長え人生ん旅  
じゃけんど』 あん時があつたき あん人とな片思いがあつたき 今ん幸せがあんのかん知れん。肌はに冷てえ滝しぶき  
いつまでん 優しい囁きじみんなに 無言の教えをしてほし  
いもん。



野津原方言單語



## 方言単語のひろがり

ここから単語を順に追っかけます。約15年間に調査し収拾した方言単語は約15000語になりました。勿論方言で無いものや使われのないものもあるでしょうが本の性格上仲間に入れました。先人が生活用語として長い歴史のレールの上で大切に使い役立ち時には喧嘩した生活用語だったからです。

単語が二つ連なるもの 繰り返しのもの 同じ発音でも意味は全く異なるもの などなど 面白さもありますが生活する上から 創り出された方言もありそうです。

今回から次回No.1 ♪ に 続けて集大成として 記録に残せた そんな幸せもかみ締めています。調査して取り組んで 辛いこと苦勞もあったけれど 喜びと達成感は 宝物として大切に 記録にも心にも保存しています。県立大分図書館にも 永久保存していただいています。



## 方言のひろがり

方言にゃ2つイッション単語を 使うもんが多いが『重ね着』  
んごつ 寒い時にゃ重ねちヌクウなり 暑いトキゃ重ねち涼  
しゅうもなる。『ツレナウ』とん言うき トギなったりもする  
し そんな重なりようじゃ 内容意味もオーケンコト違うことも  
ある。

『続編No.8』じ人気よかったき こんだもチョコット載  
せました。これも場所、ところ、地区にヨッテン違うし 江戸  
期ん所属した藩にヨッテン 違うき面白いごたる。中にゃ方言  
でんねーんがあるが トギ入れなち言うき 入れたで。

アチアチ……………暑い、熱い、厚い、熱くて思わず手を放す。  
アマアマ……………甘いものを差し出す、甘えん坊、考えが甘い。  
アルアル……………ありますよ、そんな状況が見られる。  
アレアレ……………あらあ、あれですよ、餅つきの取り粉を。  
イヤイヤ……………嫌いです、仕方なく、気が進まないが、かぶり。  
イヨイヨ……………決まりましたか、機会到来、もうすぐ、待つ間。  
イライラ……………気が落ち着かない、動悸がする、ウロコです。  
イロイロ……………ありまして、あれこれ、文句が多い、百人百色。

ウカウカ……………油断が出来ない、落ち着かない、浮沈繰り返し。  
ウジョウジョ……………たくさん、いっぱい、賑やかなこと。  
ウスウス……………そんな気がしていた、予想はびたり、狂いはない。  
ウソウソ……………全く根拠がない、でたらめです、冗談だよ。  
ウトウト……………居眠り、気持ちよい空間、考えがまとまらない。  
ウマウマ……………おいしいよ、食べたい願い、内緒の食べ物。  
ウリウリ……………売りながら、売るだけじゃないよ、商売。  
ウルウル……………売りますから、涙がこぼれそう、潤み声になって。  
ウロウロ……………落ち着かない、目的が決まらない、纏まらなくて。  
オイオイ……………そのうちに、いずれ決まる、やがて来る、又。

オエオエ……………追いなさい、追う、早く追っかけて。  
オシオシ……………遅い、押しながら、押しでは詰め、話を煮詰める。  
オスオス……………押しして、やがては来るでしょう、遅くなって。  
オセオセ……………押しなさい、大人になったよう、遅いど、やがて。  
オタオタ……………もたもたして、落ち着かない、心配で気になる。  
オチオチ……………ゆっくりと、気になり苦になる、大丈夫。  
オテオテ……………お手をだして、落ち着かない、ゆっくり出来ない。  
オリオリ……………ついでの時に、機会を見て、汚れた水のように。  
オロオロ……………落ち着かない、心配で仕方ない、腰を落ち着けて。  
カアカア……………烏、うるさい事で、おとなしくしなさい。嫌われ者。

カキカキ……………書きながら、書いたばかりで、痒いもので、下品。  
カクカク……………書いています、掻きますよ、掻きなさい、左様で。  
カケカケ……………掻きました、書きながら、掛けています、走る。  
カサカサ……………乾燥して、乾ききって、枯れたのでは。  
カタカタ……………片一方、違ふ物合わせ、リズム、片側だけに。  
カチカチ……………固まって、固い状態、凍っている、緊張して。  
カラカラ……………乾燥して、乾ききって、水分不足、心地好い音。  
ガンガン……………うるさい音、高い音、耳障りの音、嫌われる音。  
キタキタ……………来ました、来ると思った、来たのはよいが覚悟は。  
キツキツ……………窮屈、いっぱい寸法、厳しい組合せ、無理では。

キュツキュツ……………無理強いして、押し込み過ぎた、大丈夫。  
キラキラ……………輝く様、光りすぎて眩しい、見事なもの、一番。  
キリキリ……………痛む状態、土壇場、後がないよ、そこまでです。  
クスクス……………隠し笑い、耐えられないので、おかしくて。  
クタクタ……………疲れ果てて、疲労困ぱい、食べすぎた、満足じゃ。  
クネクネ……………曲がり曲がりに、柔らかな体格、よくもまあ。  
クラクラ……………目まいがする、瞑想して、恋の情熱、酷い疲れ。  
クリクリ……………いがぐり頭、かわいい頭、光る坊主頭、ください。  
クロクロ……………日焼け姿、真っ黒な、回りの外側、隅ずみ、黒光。



ケツケツ……消しましょう、落ち着かない、乱雑な振る舞い。  
ケチケチ……けちん坊、欲張り、世間知らず、嫌われ者。  
ケラケラ……品の悪い笑い方、雑な笑い声、世間知らず。  
コセコセ……欲張り根性、うるさい態度で動き回る、心貧しい。  
コソコソ……落ち着きがない、嫌われ者、内緒ごとが好み。  
コチコチ……固まって、緊張する性格、堅物、融通が効かない。  
コツコツ……用心する性格、確実に暮らす、むだ足を踏まない。  
コテコテ……用心深い、人にごますり、世渡り上手、嫌われ者。  
コトコト……物音、何事でも、確実に動く性格、繊細な落ち着き。  
コネコネ……調合が上手、調理が抜群、人を見分ける、業師。

コマゴマ……些細な事に気つく、緻密にこざわる、用心深い。  
ゴミゴミ……雑多で汚い、複雑な環境、清潔感に欠ける。不潔。  
コリコリ……さじを投げる、嫌われる、相手にされない。  
コロコロ……天気者、持続性がない、いい加減、飽かれやすい。  
ゴンゴン……すごい音、威圧を感じる、力を誇示する。  
サクサク……爽やかな音、刻むリズム、あっさりした感触。  
サムサム……寒さが、少し少ないのでは、辛抱する気持ち。  
サヤサヤ……爽やか、季節の楽しい感触、自然の状況、嬉しい。  
シクシク……泣きたくなる、悲哀の情感、貰い泣く心境。  
シコシコ……口当たり抜群、持ち味が生きている、技が妙なる。

シトシト……湿っぽい、陰気な情感、同情したい思い、悲哀。  
シメシメ……上手くいった、成功間違いなし、結果が楽しみ。  
シラシラ……嘘っぽい、作り話の味気なさ、誤魔化しは損をする。  
シリシリ……知っていたのに、誤魔化しは無効、同罪になる。  
シレシレ……知りなさい、知って損はない、知ればわが物。  
ジワジワ……自然と、押し寄せて来る、苦労が実る、ご褒美が。  
ズキズキ……痛む、無理は大げがに、胸の痛みでなければよいが。  
ズケズケ……物怖じせずに、度胸の問題、正論は苦手なし。  
スコスコ……尾を巻いたか、下がるも一つの手、時には負けても。

スマズマ……………隅っこ、気につきにくい場所、使いにくい場所。  
スミスミ……………隅っこ、忘れられそうな場所、不便な物置。  
スヤスヤ……………よく眠っている、簡単に出来上がった、熟睡。  
スルスル……………滑るような動作、しますよ、仲間に入る、賛成。  
スレスレ……………際どい動作、危険と背中合わせ、ほんの瞬間。  
ソラソラ……………心配になる、甘やかす、面倒見すぎる。  
ソロソロ……………待たせていましたが、始めますか、ゆっくりと。  
タコタコ……………尻、炊きます、尻揚げの状況、足に出来る動き瘤。  
タセタセ……………足してください、加える、上乘せする、補う。  
タツタツ……………裁断する、勃起する、建てる、出発します。

タニタニ……………谷間が多い場所、尋ねなさい、尋ねて行く。  
タマタマ……………突然、偶然にも、予想していなかったのに、吃驚。  
タラタラ……………流れ落ちる汗、訳のわからない事ばかり話す。  
チラチラ……………風雪の降りはじめ、ほんの少し見える、微妙な。  
チリチリ……………散財、散らばって、別れ別れに、選別したゴミ。  
チルチル……………散ってしまう、名誉も失う、惜しまれて逝去。  
ツイツイ……………うっかり、残念無念ですが忘れて、遅くなって。  
ツギツギ……………続いて、追加して、引き続いて、後に継続して。  
ツミツミ……………摘む、積んで、摘みながら、積みこんで続ける。  
ツヤツヤ……………つや光、輝くような、はちきれないように、健康。

ツラツラ…よくよく考えると、思い浮かべると、顔、生意気な。  
ツルツル……………滑り落ちそうな、よく磨いてある、ピカピカに。  
ツレツレ…連れ立って、仲良し仲間、時の動きに、季節の巡り。  
テカテカ……………飾り挙げて、磨き上げた、着飾って、拵えた状況。  
テクテク……………感覚よく、規則正しく、ひたすらに、自然体で。  
テマテマ…手間の仕事、仕事の合間に、お互いに加勢しながら。  
テレテレ……………ぼんやりして、考えなしに茫然と、自分では無理。  
トキドキ……………間に間に、暇暇に行動、時間の許す時には、間隔。  
トシドシ……………その年には、年によっては、良いとし悪い年。

トロトロ……うたた寝、ゆつくりと燃える、気長い感覚、疎い。  
ナキナキ……泣きながら、くやし泣き、悲しいありさま、悲憤の。  
ナケナケ……泣きなさい、なくなってしまった、残り少ない。  
ナニナニ……何事ですか、どんな用事、疑問に思う、聞かれた時。  
ナミナミ……いっばいに、こぼれそうな、普通の状態、小波。  
ナメナメ……しゃぶるように、静かに食べる様相、なめながら。  
ナレナレ……物怖じしない、顔見知りの人たち、気心の知れた人。  
ニタニタ……煮えました、よくにている、うすら笑い、煮たもの。  
ヌイヌイ……縫いながら、縫う事が好きで飽きない、熱中して。  
ヌリヌリ……塗ながら、塗る途中で話しをする職人、時間の調整。

ヌルヌル……ねばっこい状態、熱くないお風呂、粘りが強くて。  
ネムネム……眠たくなったよう、眠らせようか、幼児の子守役。  
ネリネリ……練りながら、練り上げる状態、寝たの知れない。  
ノキノキ……済み次第、急に言われて、のけなさい、始末する。  
ノシノシ……威張って大股に、悠然として、大股で、乗せて。  
ノチノチ……後々の、後悔しないように、後の祭り、先に立たず。  
ノメノメ……飲みなさい、のめり込んで、無理に飲ませる。  
ノレノレ……乗りなさい、加勢しては、調子に乗せられて。  
ノロノロ……遅いありさま、のろまな性格、ゆったりして。  
ハアハア……息苦しい、疲れ果てる、疲労困ぱい、もう駄目。

ハタハタ……はためく音、機織りの快音、風に靡く旗の音。  
ハラハラ……心配する様、肝をつぶして、気をもませる状態。  
ハリハリ……干しだいこんの三倍酢、障子の張り替え作業。  
ヒイヒイ……悲鳴を挙げて、肝をつぶすような声、興奮状態。  
ヒクヒク……引いているよう、引き下がります、取り止めます。  
ヒケヒケ……引きなさい、引いたが勝ち、引き時かもしれない。  
ヒサビサ……久しぶりの、御無沙汰しています。再会の楽しさ。  
ヒヤヒヤ……どきも脱がされ、危険状態、冷たくて美味しい。  
ヒラヒラ……舞い落ちる落ち葉、舞姿上品に、センチメンタル。

ヒルヒル……………干あがる、干したのでよく乾く、便をする。  
ヒロヒロ…食欲が激しくなり欲しがる、あさましい有様、欲求。  
ヒラヒラ……………袂を靡かせて、葉が舞落ちる、気分が浮き浮き。  
ヒタヒタ……………ちょうどよい水の量、干し上がった、乾いた。  
ヒニヒニ……………日が増すごとに、くり返す度に、毎日のうつり。  
ヒマヒマ……………余暇、のんびりした心境、余暇を利用して。  
フアファ……………浮き上がったような感覚、膨れあがって、言語難。  
フウフウ……………熱すぎて食べるに苦勞、息苦しい、冷やしなさい。  
フカフカ……………膨れた寝具、深くかぶる、最敬礼、低姿勢、多毛。  
フサフサ……………毛髪が多い、実りが多くて靡く。

フルフル……………ふり回す、降り続く状況、振り落とす、降る苦情。  
フラフラ……………動きすぎて、酔い潰れて、疲れすぎて心身共に。  
フレフレ……………振り回す、雨降り賛歌、開き直った雨害苦言。  
フワフワ……………柔らか、浮き上がる心境、心浮き浮き嬉しさ。  
ヘトヘト……………疲れ果てる、心底からの疲勞、これ以上は無理。  
ヘナヘナ……………崩れ倒れる、座り込んでしまう、泣き崩れる。  
ヘタヘタ……………これ以上の下手はない、座り込んでしまう、失敗。  
ヘトヘト……………疲れ果てる、根気も欲も消失、希望もなくなる。  
ヘラヘラ……………ウスラ笑い、卑下した皮肉笑い、調子に乗せられ。  
ホクホク……………思わぬ喜び、希望が叶って、予定通りの収穫。

マイマイ……………気分がうわずって、浮き浮きする心境、舞う。  
マエマエ……………舞いなさい、喜びが爆発する、神楽が始まる。  
マタマタ……………続いての動作や言葉が出る、ひっきりなしに。  
マニマニ……………暇暇に、余暇を利用して、合間にする動作。  
マルマル……………すべてが出来て、思う通りに、完全に、叶う幸せ。  
ミタミタ……………見ましたよ、よかったね、拝見したよ、予想外な。  
ミルミル……………見えていますよ、みますから慌てないで、拝見。  
ムシムシ……………蒸し暑い、異常な暑さ、湿気が多くて苦痛。  
ムリムリ…それは至難の技、大丈夫ですか、むとうな計画。

メラメラ…燃え上がる情熱、かげろう、ぞっこん惚れこんで。  
モウモウ…激しく押し迫る、燃え盛る、牛、どうにもならぬ。  
モタモタ…慌てまくって、手元が乱れる、落ち着きがない。  
モチモチ…粘りついて、粘りがよい、性根がひどい有様。  
モヤモヤ…かげろうのような、はっきりしない、気を揉む。  
モリモリ…元気いっぱい、たくさんに、盛り上がって。  
ヤイヤイ…騒ぎたてる、賑やかにまくし立てる、騒々しい。  
ヤラヤラ…堪えられない痛み、気が転倒する、落ち着かない。  
ユウユウ…落ち着きはらって、自信たっぷり、先頭に行く。  
ユサユサ…揺れ動く、移動が激しくて、脅しをかける。

ユラユラ…揺られながら、気持ちよい動揺、足もとが危険。  
ユルユル…ゆっくりと、落ち着いた素振り、だらしがない。  
ヨクヨク…考えて見ると、気持ちも解るが、理屈がありそう。  
ヨタヨタ…酔いが回ったか、不安定の状況、寄りかかって。  
ヨミヨミ…計算しながら、読みながら、考えながら作戦を。  
ヨレヨレ…汚れたままの、傷みがひどい衣服、見かけが悪い。  
ヨロヨロ…不安定な歩き方、倒れかかる、寄って行くか。  
ヨワヨワ…貧弱な、ひ弱な性格、病身な人、大丈夫。  
ラクラク…恵まれて、暮らしが豊かで、楽しい生活環境。  
リャリャ…それは大変、これは吃驚、とんでもない場面。

ワアワア…騒ぎまくる、はやしたてる群衆、叫び声。  
ワイワイ…騒いで賑やかに、祭りか喧嘩が、人騒がせ。  
ワクワク…嬉しさ湧き出る、喜びの吉報、思わぬ知らせ。  
ワヤワヤ…動き回って、はいはいが上手、嬉しくてもう。  
ワルワル…割れました、悪がきたち、悪坊のいたずら。  
ワレワレ…私たち、割ってもいいよ、割れた事に意義も。

単語が二つ連なる方言ぬ並べました。もちっとツナガッチョ  
ルヌ ナラベチみろうかな。方言の広がりん続きじゃきな。



アイタアイタ……痛くて、疲れすぎて、疲労困ぱい、飽きて。  
アシタアシタ……明日にします、次の日に、後回し、急かずに。  
アッチアッチ……あちらです、熱いのに吃驚、方向が違う。  
アメェアメェ……考えが弱い、育ちが幼稚、甘くて、心配な。  
アブリアブリ……あぶり出して、乾燥する、暖める、加温。  
エッサエッサ……かけ声、勢いをつけて、追いあげる、歓声。  
カツカツ……やっとの事で、間にあった、不安な状態。  
キチンキチン……決まりよく、律儀者、几帳面、抜け目なし。  
クイノクイノ……食べたばかりの時、食べてすぐ、間発の時。  
コチンコチン……固まっている、凍っている、堅物、緊張。  
サンドサンド……度々に、毎回の事、数が多くなる、連続。  
シメーシメー……しませんから、中止します、やめました。  
タンビタンビ……たびたびに、重ね重ね、くり返して、連続。  
チョイチョイ……たびたびの事、続けて、よく飽かずに。  
トンボトンボ……ところどころ、飛び飛びに、間隔をあけて。  
テレンテレン……のんびりと、だらしが無い、間にあわない。  
ナンノナンノ……それくらいはもう、苦にしないよ、合点。  
ヒッパリヒッパリ……続きの関係、つながっている、合い縁。  
マッタマツタ……まちなさい、待ちましたか、繰り返しに。  
ムシャムシャ……汚い食べ方、飽かずに食べる、気分が悪い。  
ムチャムチャ……騒乱状態、無茶が通る有様、強引な有様。  
ナンノナンノ……これくらいは、心配無用です、大丈夫。  
ナンボナンボ……いくらですか、競り場のかげ声、値段。  
ネチャネチャ……粘りついて、粘りっこい、粘着が気になる。  
ネベーネベー……粘い性格、粘りすぎたよう、粘りが出た。  
ヘッケヘッケ……やっとの思いで、疲れ果てた、息がつまる。



調査員





平成4年7月に調査に意欲の8人が会合して取り組みに。いろんな誹謗中傷もありました。でも今残さないと消えてしまう。不安はあったもののやる気満々 とにかくお互いがメモを取り 当初500語でもまとまればと 夢も湧かせて時折連絡を取りながら 1年過ぎた頃には予定の500語は集まったのです。

分類選別してみるとそこは素人 やはり純粹の方言は少ないことも。でもここまで来た事の喜びと 方言が今なら残せると解った嬉しさ。家庭の地域の本職の多様な 余暇を利用する冒険の中で時の教育長 Sさんに成り行きを話すと 素晴らしい企画と賛成してくれ 公民館を使って作業を進めたらと 理解支援もしてくれたのです。

人の巡り合わせがあり同志がいる力強さ。手を出そうかとも協力してもいいと そんな人たちもありましたが 当初からの8人の力試しを貫通させよう。と新しい仲間も遠慮して続く限り進む。試練にあえて挑戦する事になりました。公民館の職員の支援も受けて2年半 会費の備蓄で紙代も賄えて 『方言集前編』が完成しました。おこがましくも『後編まで進む』目鼻もついたので 敢えて前編としたのです。

100冊限定に手づくりで印刷製本 インクの香りも初々しい『野津原方言集』前編 がここにお目見えしました。幼稚で素人手づくりの冊子です。でも調査会にしてみると 万金の宝物のような想いもいたしました。あれから15年よくもまあ続いたものだと呆れたり 愛読してくださった皆様に感謝して来た 15年間でもありました。愛読者があったから そんな皆様が創ってくださった冊子と思います。

## 豊かさの中で失われる儂さ

方言調査会に参加して、15年余の時間が過ぎました。多くの方が方言に対し、郷愁の思いがあるのでしょうか、野津原以外の方が興味を示してくれています。

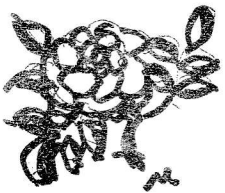
消え行く言葉と、風化する生活習慣を、文字として残して行く、そんな願いも込めて、県立大分図書館にも、永久保存されることにより、これから手がけられる皆さんの、何らかの資料となり、役立つなればと、念じています。

野津原で使われる方言は、近い将来、きっと失われて行くことでしょう。方言のアクセント、語彙は世代を下回るに従って、なくなっています。

私たちの方言調査会は、続編10号と言う、大きな節目を迎えようとしています。これからも、さらに、身近に潜在している方言、失われつつある伝承民話、消え去りそうな物語、などを掘りおこし、生活の習慣も、言葉の深さとして記録して行くよう、考えているところです。

引き続き多くの皆様のご支援ご愛読を、お願い申し上げます。それが取り組んだ、私たちの宿命と思っています。

小野寿祐



## 紆余曲折の15年

方言集…前編の冊子を発行した時 会員の一人がマスコミに  
謹呈を 提言した事から関係の役所などにも。大分合同新聞や  
ODSが紹介してくれ 続いてTOS NHKも放送してくれ  
初版の100冊は たちまち散らばってしまった。限定100  
冊の予定も珍しさ 素人集団の取り組みとあって 増刷計画を  
協議して 200冊を印刷した。

助成話も依頼して『第百生命』 のち『日本船舶振興会』も  
又 小学生、中学生向けの方言ガイドでは 町の教育委員会か  
らの助成も受けた。会費だけでなく愛読者の 支え協力な  
どで続けられる。限定100冊の基本で 継続を行ける所まで  
貫いてと 後編にも弾みをつけて 振り返ると のめり込んで  
いた8人の『やった』と 思う嬉しさが滲み出た5年目。

資料も寄せられ聞き取りの話 視察に出かけた場所での材料  
は それから更に10年継続して来た 宝物の材料でもある。  
『こげなんなどげーな』『こんなはなしがあった』 聞き耳と  
好奇心が一層幅も持たせて 単語だけでなく内容にも飛躍 時  
野津原町町制施行40周年記念に 町が記念として取り組みた  
いとの事。ならばお任せしようと 謹呈分だけ貫う事で一切を  
委任 350セットを業者に委託して完成。『前編、後編、こ  
ぼればなし』が 記念としてできあがった。

引き続いて限定100冊を維持しつつ 方言集続編として  
定期的に発行。平成15年には取り組み10年を 記念して方  
言の『単語集…前編、後編、追加編』も 発行し約15000  
語 入った総集編になった。ただ素人集団ですから 必ずしも  
方言でないもの 使ってはいけない差別語 なども方言集の性  
格上入っているのは ご了承ください。





## 『手づくりの魅力に巡り会う 幸せな期間』

野津原の方言調査をせんかえ 『仲間に入らんかえ』と 言われて『なんで私が方言を……』 あまり乗り気もしなかった会に 入れてもらったけれど 調査を進めてゆく間には たくさんの方がたとの出逢い。そんな中での古くからの生活用語は 聞き取りも楽しく 人の心の温かさが伝わる 束の間の和み休まる瞬間でもありました。

予算ゼロのボランティア活動ですが それがなでか苦にならないのは そんな巡り合わせの宿命であり 今残さないと消え失われる未練が 心を刺激しているからだろうか。面白いとも思える方言の世界には 先人の生活の知恵として 体験の中から編み出し作りあげた 丹精の生活言葉が行き来する かけがえのない世界があるからでしょう。

スタート当時は8人でしたあの頃は 皆んな若かったが15年も過ぎると 『千の風になった方』『高齢で引退させてほしい』と 引退の方たちの後ろ姿には かけがえのない方言暦の遍歴が 輝いているようです。そんな寂しさを乗り越えて 継続することがこんな人たちへの 恩返しと頑張っていますが。

手づくりのよき素人集団に 支えてくださる愛読者に 少しでも方言の温もりと心豊かな 先人の暮らしを知っていただくためにも まだまだ抜けられそうにない 今年の初夢でした。還暦を過ぎて生かされている 人生のこの世にお返しは 現世で出来るこの調査を実りある 宝物として残すためにも 続編を重ねて行くことに 微力ながら誇りももっています。

那須政子

## 温かいイントネーションに魅かれて

『方言調査会で活動してみませんか』と声をかけられて頂いた時には 浅学非才であることに戸惑い『私に出来るだろうか』と考えましたが 調査活動して行く中で 多くのかたがたと 出会うこともでき また他県で同じく調査活動実践されている会員の皆さんと 交流する機会にも巡り会いました。

所変われば言葉や訛も異なるもの その奥深さなども調査の参考 知識にも効果をあげる 地域文化も吸収できました。交わす言葉によって 人は悩んだり 心が豊かになったりする 不思議な力もあって 言葉で時には慰められ 励まされ勇気づけられる。潜在のイントネーションが 意志を通じ合わせ 気持ちを理解する鍵にも 怖い道具にもなることも理解できます。

争い事も不満の増強にも 言葉が介在することで 広がり激しくなる。反面優しい言葉で 触発を防止したり 仲介の役割も果たす大きな 鍵にもなる言葉の使い方も 解る思いにも駆られて行く 勉強も出来ました。安心する気持ちや 日常生活が和む事も 言葉がいかに大切か 特に方言の持つ意味役割は大きいようです。

方言調査活動の一端を 担ってることに大きな喜び 生きがいも感じながら 息長くこれからも 活動して行きたいと思っています。方言は古い生活用語であり 失われつつある今取り組む事で食い止め 大切な無形文化財を 維持継承して行く責任も 感じています。

赤星ヨシミ

## 『今残さないと消えてしまう』

心ある人たちが寄ると出会うと　しゃべる方言に親近感とそれが　いつまで話続けられるかの　喜びと不安がいつも交差している。『書留ちゃどげーな』『本にするなゝよだきーで』『そげなおおげさじゃねえで』　平成4年の春先じゃつた。通り合わせた懇意の人たちが　すぐこげな話になった。

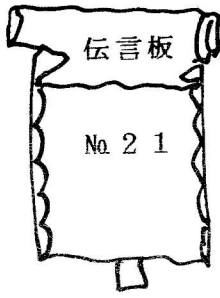
『まゝあんしにも』『じゃなゝあんしも言いよったき』  
10人ぐれがおおかた地区も　片寄らんじ年格好もバランス  
ゆう　話はトントン拍子に行き　狙われた者はもう覚悟して  
打診。8人はOKと言うことになっち　盆過ぎい打合しゅす  
るこちい決まった。

『よだきいけんどするか』そげな気持ちが　結局は途中から『のめりくうじ』　いつんめーか15年が　流れて行くんもそげな宿命　巡り合わせかん知れん。じゃが振り返ってみりゃ　あの時いはじめちよかった　とにかく単語だけでん　記録に残した事ゝかけがえんねえ　宝物でもあるち自負しちります。

素人集団じゃき方言単語じ　しゃべりん中え使われてちよるそん言葉ん一つ一つに　情愛がある故郷の生活用語そりゅ残すためん記録する。語源やら言葉の生い立ち伝わった道そりゃ二の次じ　とにかく単語を記録にとどめちおく。それが狙い目的じあったが……

『折角じゃき冊子にしゅう』　みんなん応援もうけち遂に可愛い小さな『野津原方言集』が　生まれたんで。ほんの2000語あまりん冊子じゃが。そしち15年15000語が入っちよる　20冊の野津原方言集を　ご愛読ありがとうございます。ご支援で辿りついたんで。

佐藤源治



会員の全てで手作りの 素人集団が取り組んでいる『野津原方言集』です。收拾、編集、構成監修、印刷〈公民館の印刷機利用〉 製本、装丁、など会員が余暇を利用して 仕上げたものです。お粗末な冊子ですが 今だから残せた 今だから失い消えるのを 少しでも食い止める事ができた と取り組んだ喜びも満喫しています。

単語が狙いですので その語源やどこから来た どうして定着したなどの 専門的な事は記載されていません。その分はこれから調査 研究 などに役立てて頂けると 何よりも幸せと思います。取り組み約15年あまり 調査会はこれからも引き続き この取り組みを続けて 懐かしい故郷の生活用語である 『野津原方言』を 大切にしたいと思っています。

次回No.1 1号にも…五助街道物語、方言子供の世界、女性の底力、故郷の味、ちよつといっぶく、あげな話こげな話 玉手箱、民話伝承、などが方言のちりばめで 入っています。引き続き ご愛読頂ければ何よりも幸せです。ご自愛の程をお祈り申しています。今回もご愛読誠に ありがとうございます。ありがとうございました。

野津原方言調査会



